

第370回 NRIメディアフォーラム

生成AIの展望

～生成AIの可能性と変わる未来～

株式会社野村総合研究所

未来創発センター 生活DX・データ研究室長 塩崎 潤一

DX基盤事業本部 IT基盤技術戦略室 エキスパートリサーチャー 長谷 佳明
エキスパートリサーチャー 鷺森 崇

株式会社NRIデジタル エキスパートデータサイエンティスト 松崎 陽子

2024年2月27日

NRI

Envision the value,
Empower the change



本日のテーマ

1 2024年の生成AIの展望

・・・NRI 長谷

2 生成AIの可能性を広げる技術

・・・NRIデジタル 松崎

3 生成AIはこうしてビジネスを変える
(業界別の生成AI活用状況と展望)

・・・NRI 鷺森

4 生成AIで変わる未来

・・・NRI 塩崎

2024年の生成AIの展望

IT基盤技術戦略室 エキスパートリサーチャー 長谷 佳明

2024年、生成AIは“試用”から“活用”へ

- 2023年、企業は一早く技術を利用し社会の変化に備えることが目的であった
- 2024年、実用的なアプリケーションによる圧倒的な差別化、競争力向上が目的へ

試用

ありものを価値があるかどうか触って理解すること

目的

限られた予算の中で、新技術を理解する
変化に備える

活用

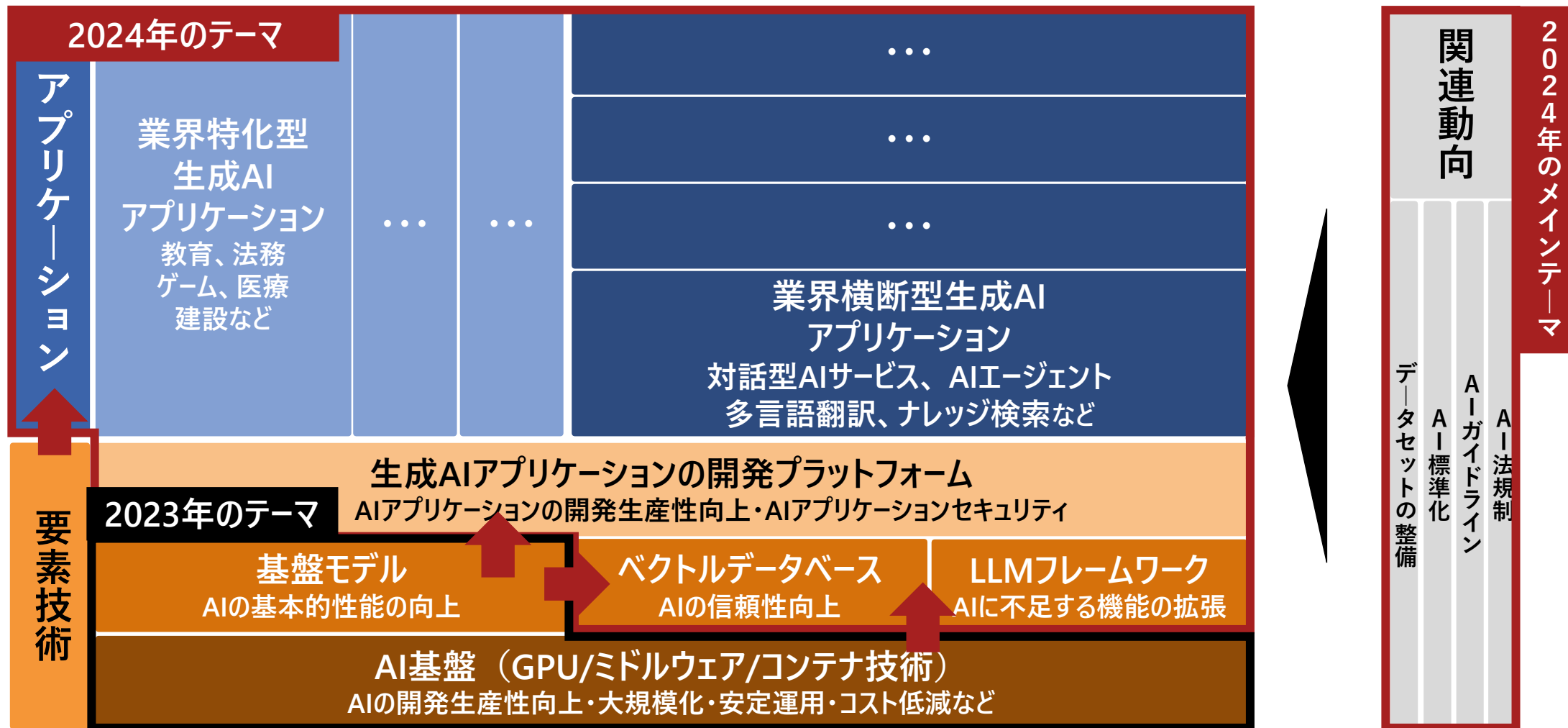
人やモノの機能、能力を
十分に生かして用いること

目的

必要な予算を準備し、周到な計画を経て技術を手なずける
圧倒的差別化、競争力向上

技術の全体像、テーマは“性能論や規模”から“実用性”へシフト

■ AIの信頼性向上や機能拡張、アプリの生産性向上、セキュリティに関する技術の獲得が必須

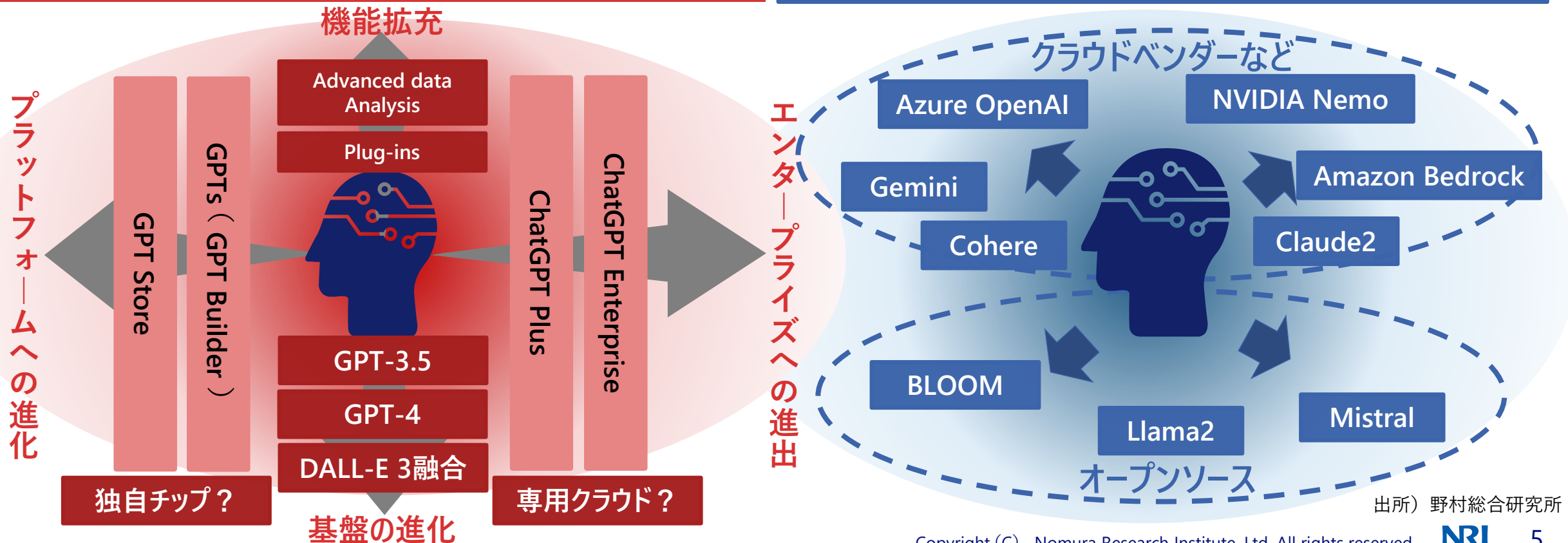


生成AIパッケージと独自生成アプリケーションの使い分けが必要になる

- ChatGPTは開発プラットフォーム化、Enterprise版のリリースなど、生成AIのパッケージへ進化
- オープンソースやクラウドベンダーなどの技術を用いた、独自生成AIも立ち上がり始めている

生成AIパッケージ (OpenAI ChatGPT)

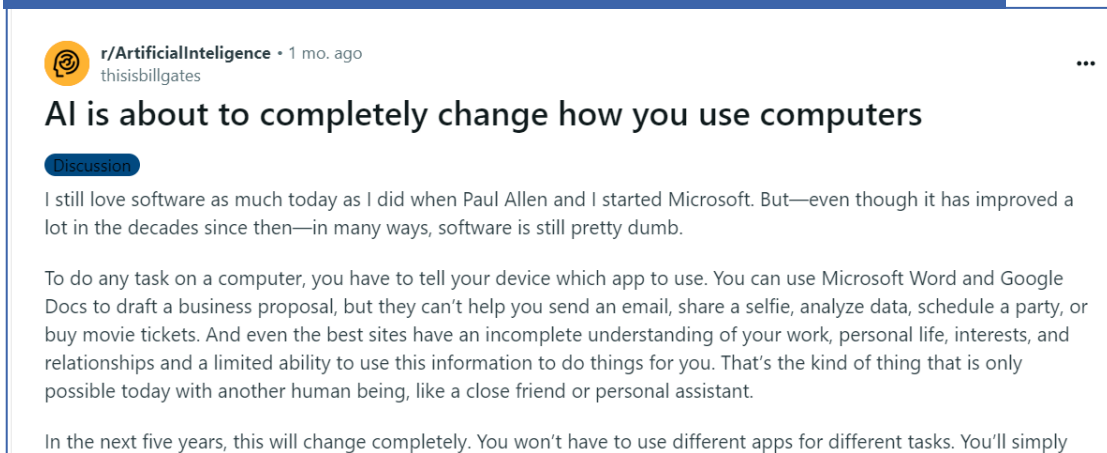
独自生成AIアプリケーション



生成AIは、従来型アプリを置き換え、将来的にサービスの“入口”になる

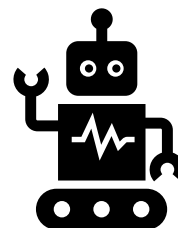
- ボットとAIエージェントは、まるでダイヤル式電話とスマートフォンぐらい一見すると共通点が多いが、実際には、社会的影響が全く異なる

ビル・ゲイツのRedditへの2023年11月の投稿



現在のように入が、多数のアプリケーションを活用する時代が終焉し、全てのサービスは、AIエージェントを介したものに变化すると予測。それに伴いアプリケーションは事実上消滅すると論考を展開

ボット
例：オフィスアシスタント

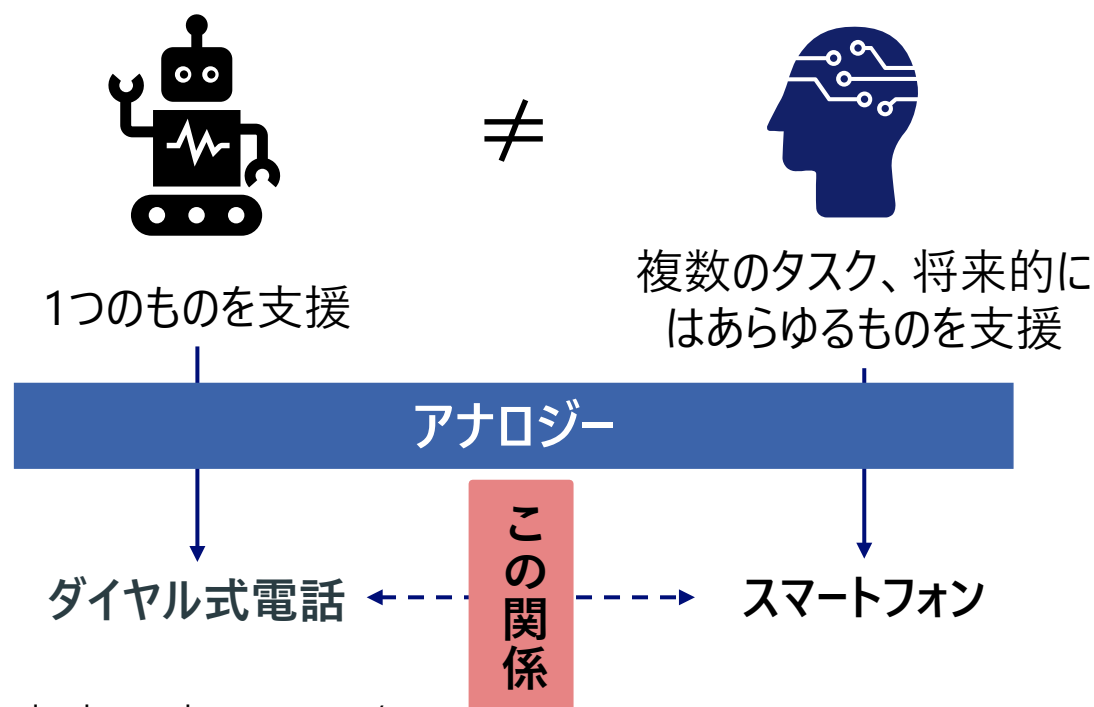


1つのものを支援

AIエージェント
例：Windows Copilot



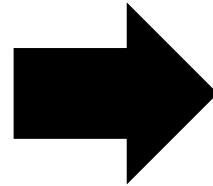
複数のタスク、将来的にはあらゆるものを支援



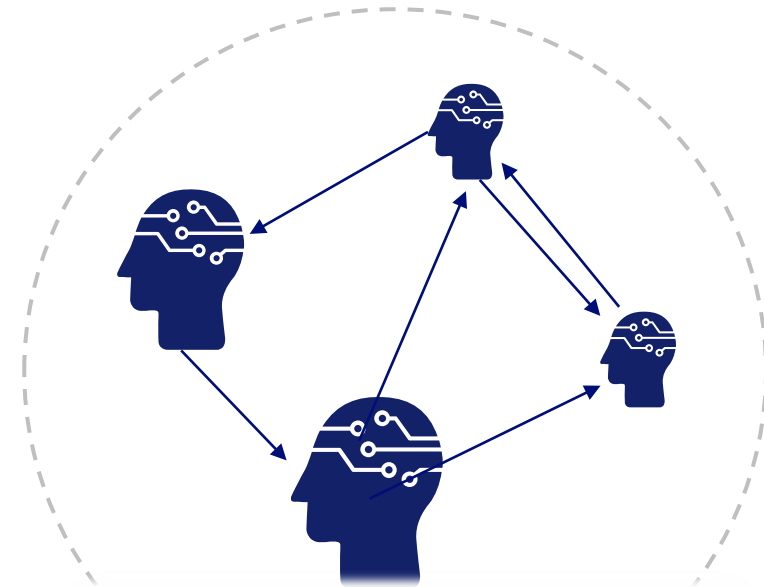
単一モデルからモデルの連合へ AIはネットワーク化される

- MoE (Mixture of Experts) とは、複数のニューラルネットワークを組み合わせた、モデルを連携させることで、性能を向上させる手法
- システム間のプロトコルは“言葉”になる

単一モデル



複数のモデルのネットワーク



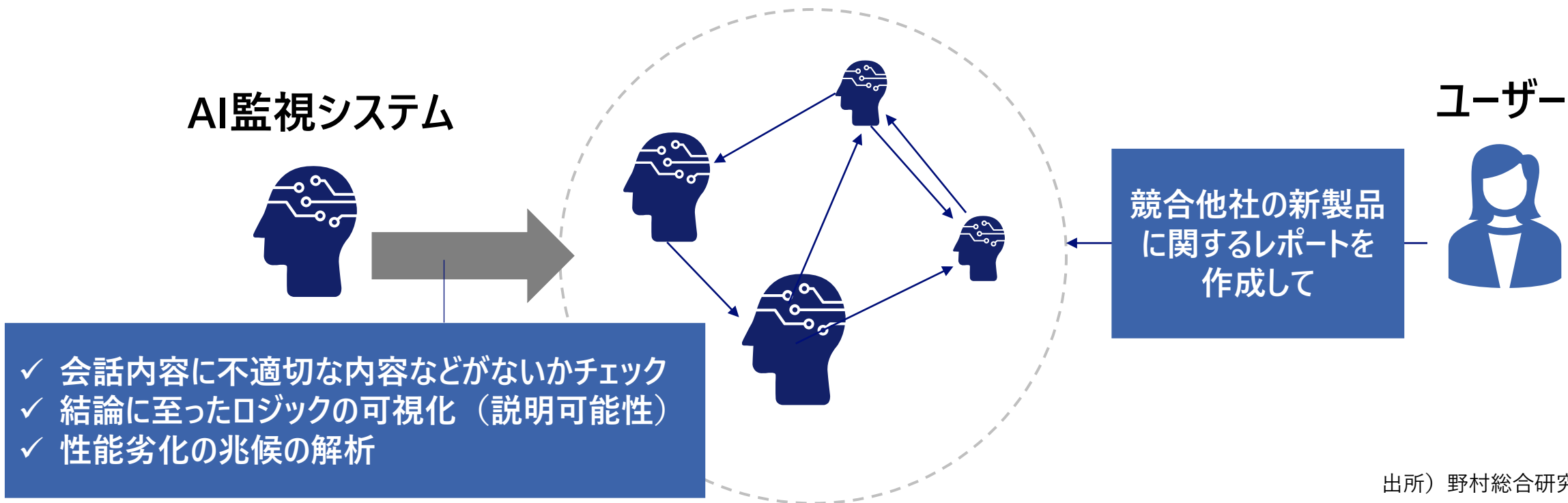
連携のための共通仕様は言語
互いに言葉によりやり取りする
⇒ 人間的システム

出所) 野村総合研究所

そして、新たな“監視社会”が到来するしかし、その対象は“人”ではない

- モデル間の会話をトレースし、性能劣化や問題を早期発見する監視システムが必要になる
- 複数のモデルにすることで、考察のロジックが可視化され、説明可能性の向上も期待できる

複数のモデルのネットワーク

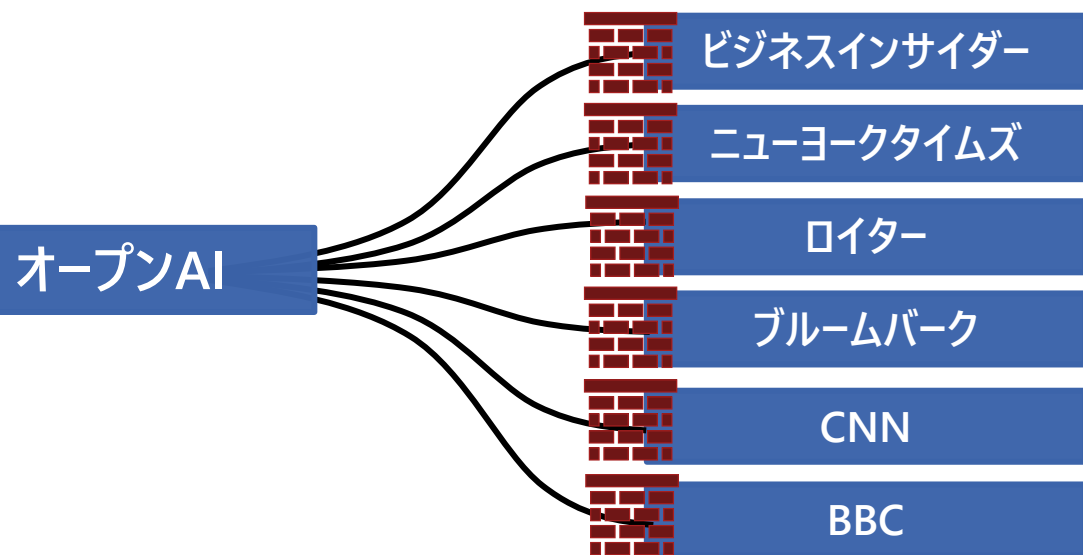


出所) 野村総合研究所

データの安定供給なくして発展は困難、メディアとの共存が始まる意味

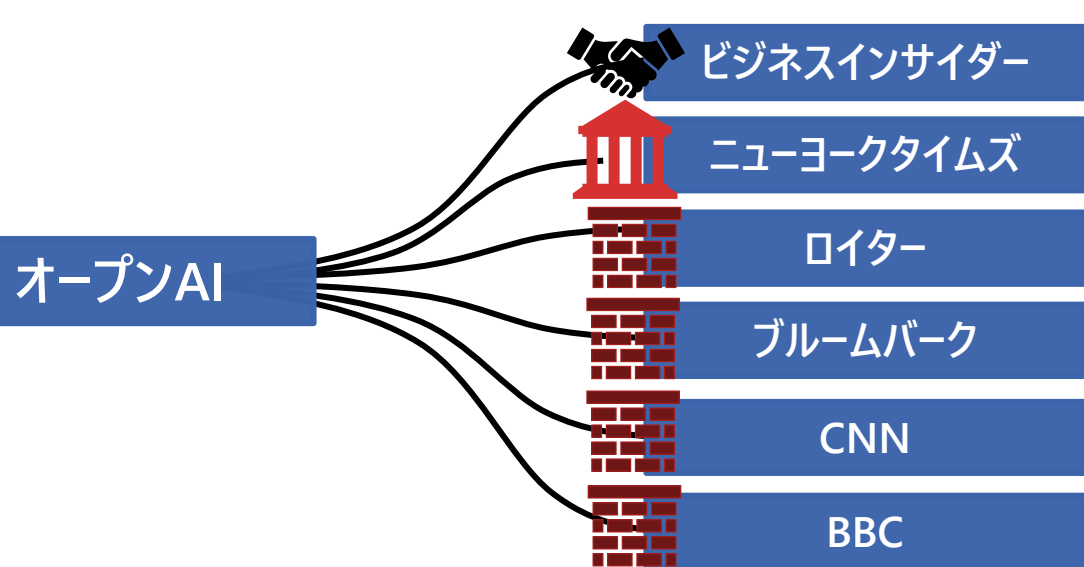
- オープンAIによる、データを巡るゲームチェンジが起き始めている。豊富な資金を元にしたデータ利用料の支払いや囲い込みは、競合の参入を難しくし、自社サービスを差別化にする武器にもなる

オープンAIによる記事の取得をブロック



インターネットのデータへのタダ乗りを認めない

データ利用料を自ら支払い始めたオープンAI



データの価値を認め、対価を支払う

AIとメディアの共存が可能であるが、AI技術の独占への懸念が高まる

出所) 野村総合研究所

まとめ

■2024年は、試用から活用へ

- モデルの性能論は続くも、企業は実用性を高めるための**関連技術**に注力すべき
- ありものの**利用止まり**では差別化は困難。**独自データとの組み合わせが競争力**になる
- 生成AIも、**パッケージと独自アプリケーション**の使い分けが求められる時代へ

■AIエージェントの先にあるのは、人間的でアプリのない世界

- AIエージェントが、サービスの**入り口**になる
- エージェントが連携し、問題を解決するなど**MoE**が現実化

■新たな脅威も生まれる

- 生成AIの安易な**組込み**は、**プロンプトリーキング**による情報漏洩につながる

■データを巡る、メディアとの共存と技術の独占には引き続き注意が必要

生成AIの可能性を広げる技術

NRIデジタル
エキスパートデータサイエンティスト 松崎 陽子

非公開モデル・公開モデルそれぞれの活用シーンが拡大



ChatGPT, GPT4



Gemini



Llama2



MIXTRAL

Closed Source (非公開モデル)

膨大なパラメータ数
(非公開)

高精度・**高い汎用性**
稼働コストが大きい

ネットワークを介した利用
(Webブラウザ, API)

情報漏洩リスク
サービスの継続性リスク

モデルをダウンロード
することはできない

Open Source (公開モデル)

比較的小規模な
パラメータ数

限定的な精度
稼働コストが小さい

モデルをローカルに
ダウンロード可能

セキュアな利用が可能
サービスの安定稼働

追加学習により、
専用モデル化できる

高精度・汎用性の高い機能をより多くのユーザーに提供

Closed Source
非公開モデル



ChatGPT, GPT4



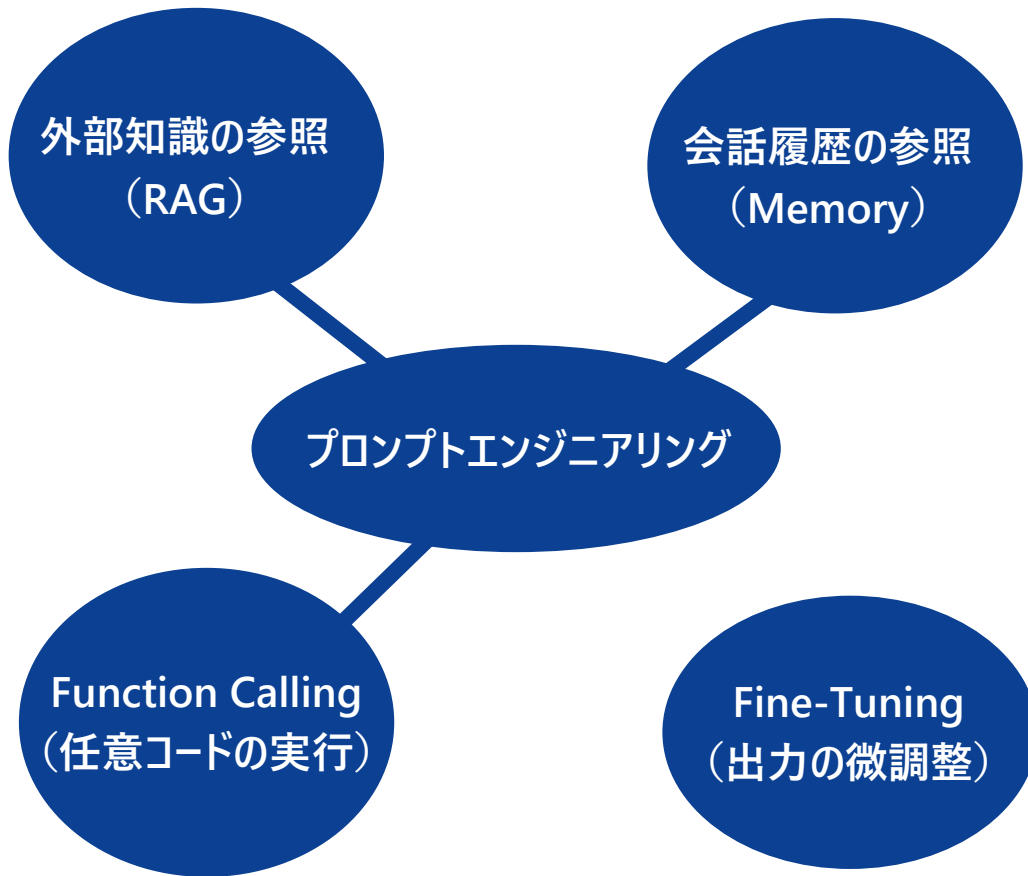
ブラウザ版ChatGPTの機能拡張

LLMの利用形態の拡張
「LLM エージェント」

非公開モデルの活用：OpenAIはブラウザ版の機能を拡充

GPT4はノーコードでも高度な利用が可能に

ChatGPT, GPT4を活用するための技術



■ GPT4

- 入力できるトークン数が増大、プロンプトに様々な指示・情報を入力できるようになった
- 外部ファイルも取り込めるようになった

■ GPTs

- ブラウザ上でプロンプトエンジニアリングを行い、カスタマイズしたGPTを作成できるようになった
- GPT store：作成したGPTsを公開・販売できる

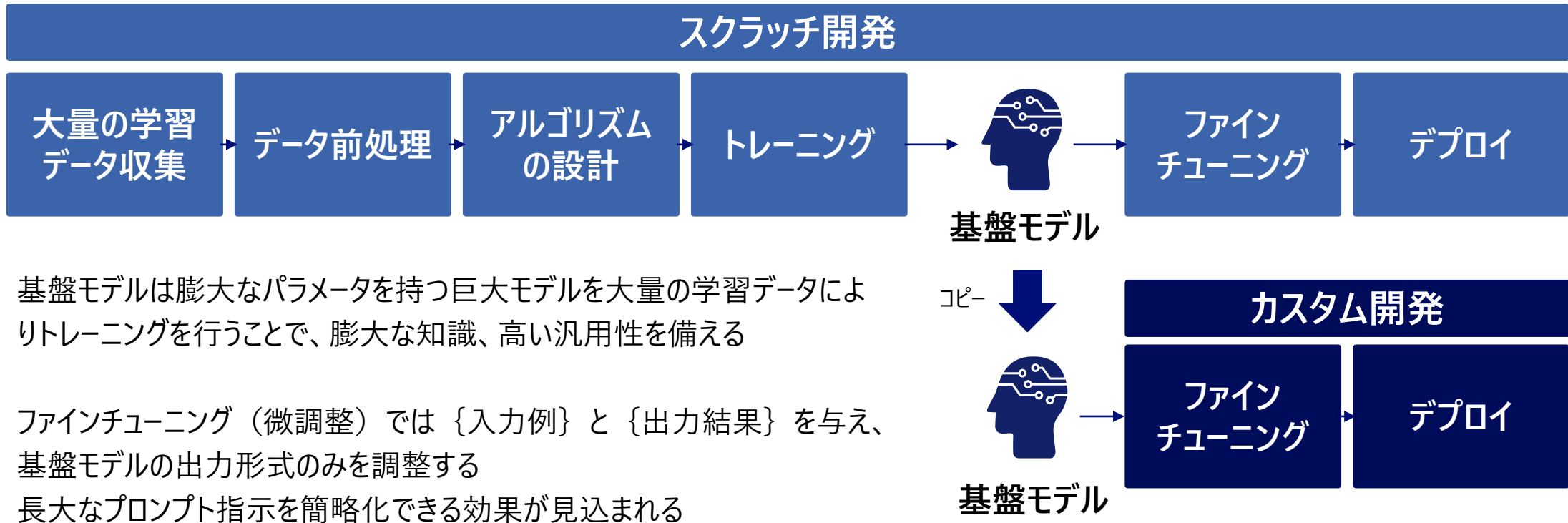
■ Memory：会話履歴を記憶させることができる

■ ファインチューニング（微調整、Fine-Tuning）：ブラウザからも実行できるように*

* API利用申請が必要

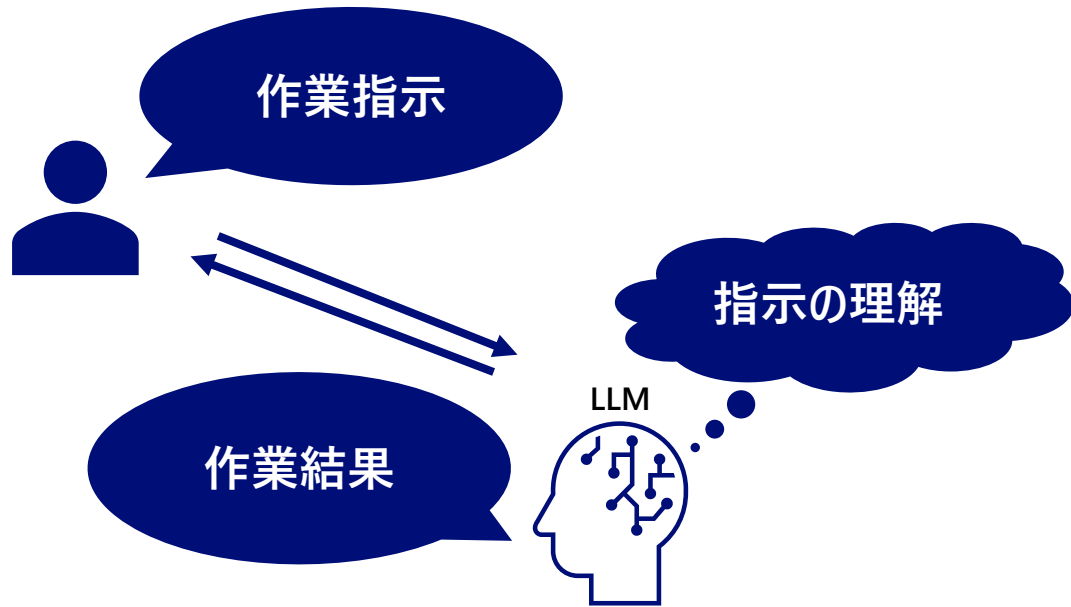
ファインチューニング（微調整）による基盤モデルの最適化

- 基盤モデルは大量のデータを用いて学習され、様々なタスクに適応できる
- ファインチューニング（微調整、Fine-Tuning）では学習済みモデルの出力層を再調整する



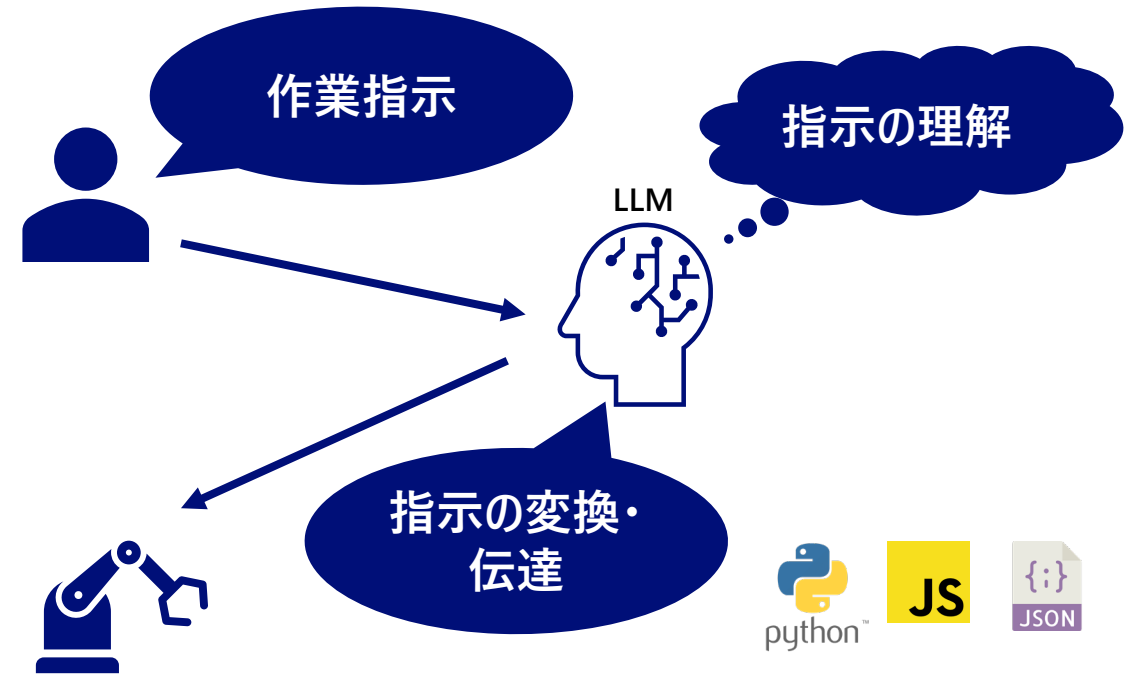
LLMの能力を「媒介者」として利用する

従来のLLMの利用方法



モデルの持つ知識、タスク処理能力を利用
人間の作業指示を理解し、

LLM エージェントの利用方法



モデルの持つ知識、タスク認識能力を利用
人間の作業指示を、他のプログラムへの指示に変換

Function Callingにより、任意のプログラムの実行が容易に

* OpenAI API, Google Geminiで同様の処理が可能

- LangChainなどのLLMアプリケーション開発ツールが発展
 - Agent 任意の処理を実行可能にするフレームワーク
- Agent, Function Callingを利用することで、LLMアプリケーションはより実践的・実用的に

プロンプト

【実行する処理】
商品と個数を抽出する
メール送信プログラムに渡す

商品Aを2つ
注文して。

LLM エージェント



ユーザーの入力から、指定
された情報を抽出
{商品：A, 個数：2}

メール送信プログラムに渡す



【メール送信プログラム】
発注メールに受け取った
値を埋め込み、送信

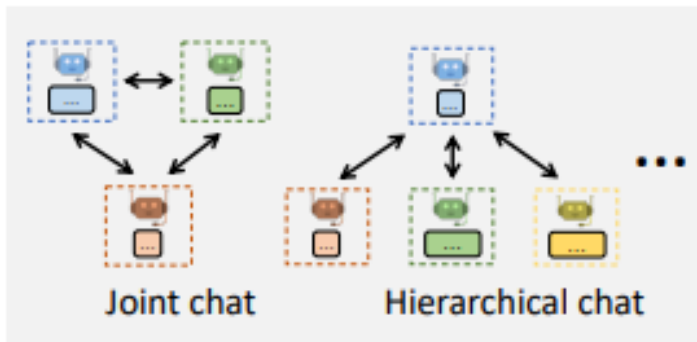
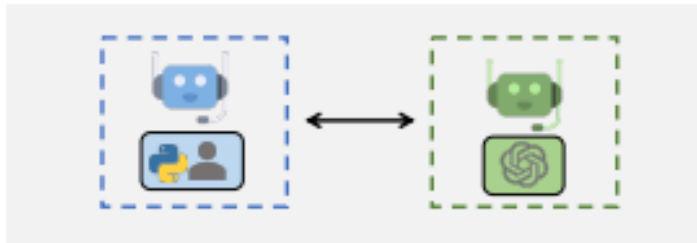
お世話になっております。
XXXです。
商品Aを2個、発注いたします。
よろしくお願いいたします。

送付先: 〒XXX-XXX
XXXXXXXXXX

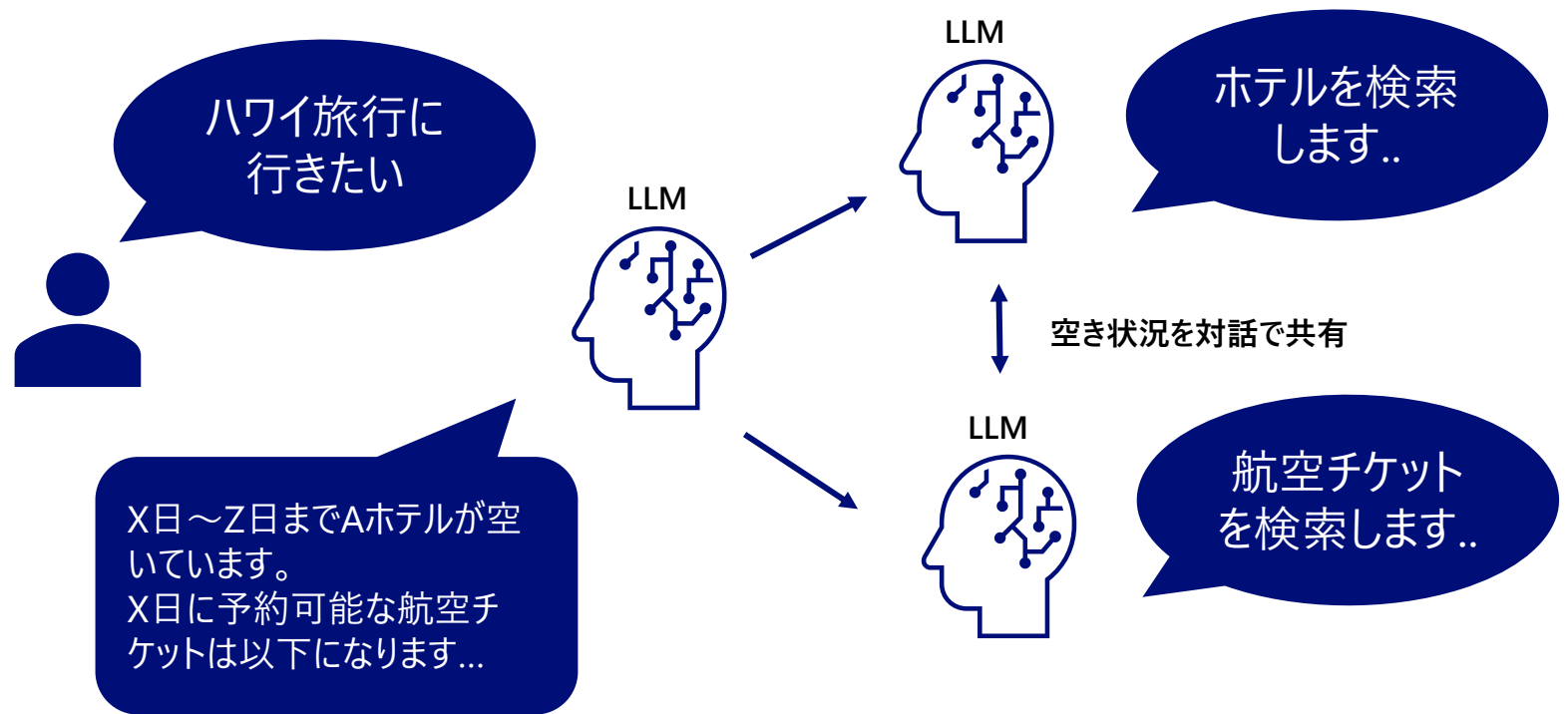
マルチエージェントが実用化できれば、LLMはあらゆるシステムと融合

■ マルチエージェント：複数のLLMエージェントが共同してユーザーの課題に対応する

- Microsoft AutoGen 複数のLLMエージェントが**対話**を通してより複雑な処理を実行するフレームワーク



Flexible Conversation Patterns

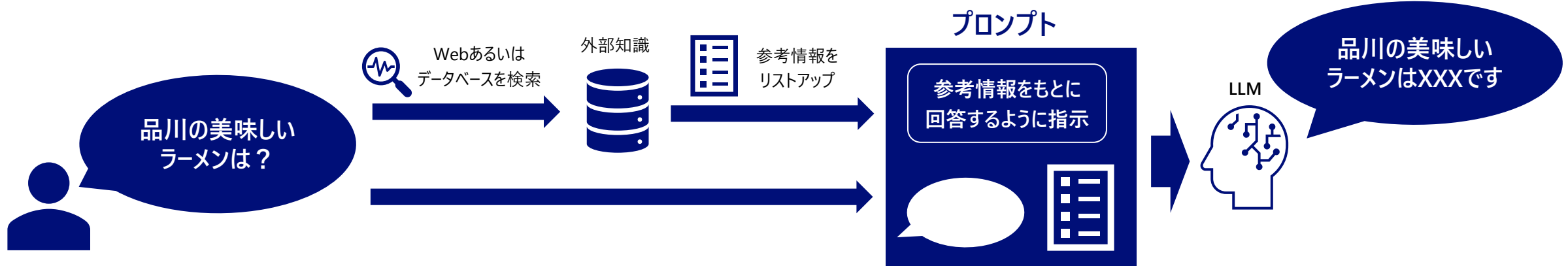


どのようにエージェント同士を連携させれば、ユーザーの要望に応えられるか？

出所) AutoGen: Enabling Next-Gen LLM Applications via Multi-Agent Conversation
<https://doi.org/10.48550/arXiv.2308.08155>

実用性の向上にはハルシネーションの抑制が不可欠

- ハルシネーション（Hallucination, 幻覚）：事実ではないこと、誤った内容を入力する現象
 - LLMは確率的に「もっともらしい」文章を出力できるが、正確性については担保しない
 - 学習データの少ない専門的な業務知識、日本固有の知識についてハルシネーションは起こりやすい
- RAG（検索拡張生成、Retrieval-Augmented Generation）
 - ユーザーへの回答に必要な知識を外部データから参照することで、ハルシネーションを抑制する
 - いかにか「**正確な検索ができるか**」が回答の精度を決める



意味的検索とキーワード検索を適切に組み合わせることが重要

- 意味的検索（semantic search）：文意をベクトルとして数値表現し、類似性を判断
- キーワード検索：単語が一致するかどうかを判断
 - 例) 明日は晴れる 意味的検索：○ 明日、雨は降らない × 晴れたら傘はいらない
 キーワード検索：× 明日、雨は降らない ○ 晴れたら傘はいらない

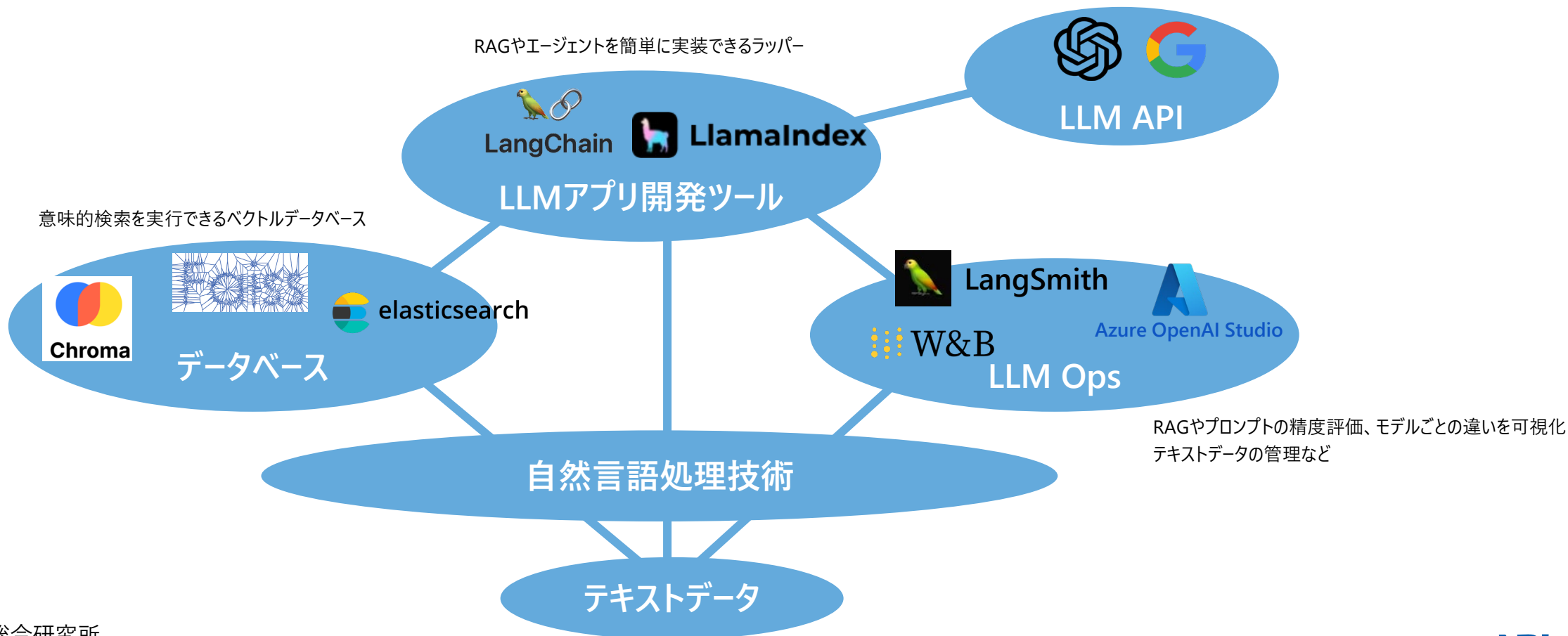
	意味的検索	キーワード検索
メリット	文意の類似性を判断できる	単語の合致性を厳密に判断できる
デメリット	結果には曖昧さが伴う	意味・意図について判断できない
利用データ	ベクトル（高次元の数値データ）	テキスト
データベース	ベクトルデータベース	リレーショナルデータベース
代表製品	Chroma, FAISS, Weaviate, Pinecone	SQL Server, BigQuery*, Oracle, Elasticsearch*
検索手法	k-NN（k最近傍） コサイン類似度	全文検索 BM25、TF-IDF （単語の出現頻度による判定）

*ベクトル検索も実施可能

開発ツールや精度検証にむけたLLM Opsツールが発達

■ RAGやエージェントなど複雑な構造のLLMアプリケーションの開発、運用をサポートする技術

- 既存の自然言語処理技術、検索技術とLLM技術を連携



ローカル環境での「専用モデル化」と運用事例の出現

Open Source
公開モデル



Llama2



MIXTRAL

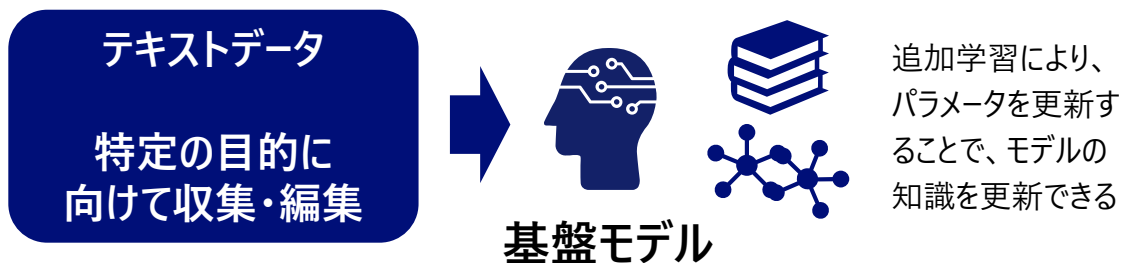
追加学習の手法、知見が蓄積

専用モデル化することで
できること・できないこと

モデルをローカルで追加学習することにより、専用モデル化

日本語追加学習などの検証により、方法論と課題が明確化

継続事前学習 (continuous pre-training)



出所) 野村総合研究所

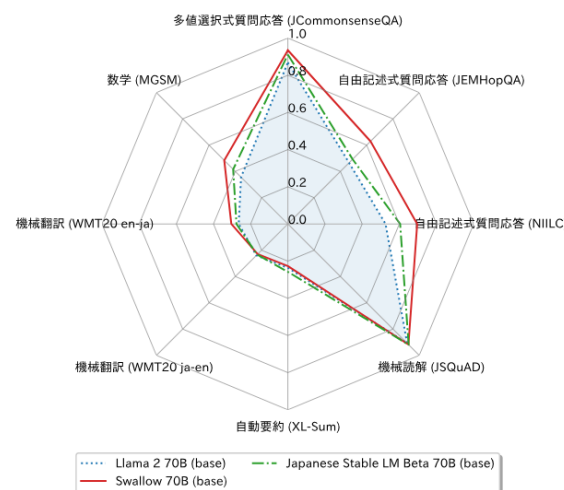
■ 破滅的忘却 catastrophic forgetting

- 追加学習により既存の学習内容が破壊される現象

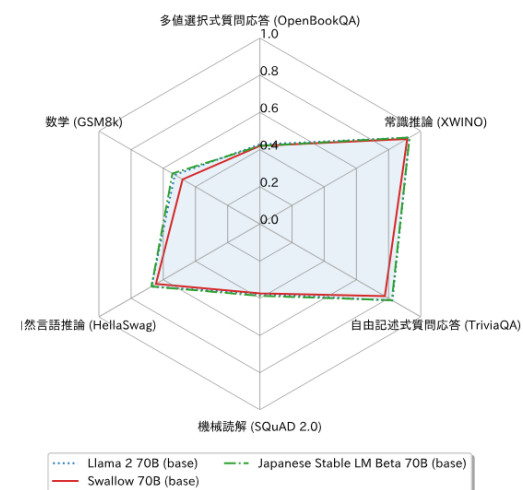
■ Llama2 (Meta)

- 事前学習データには日本語データが少ない (0.1%)
- 日本語を追加学習したモデルが多数公開
 - Swallow 東工大・産総研 7B、13B、70B
 - ELYZA ELYZA社 (東大松本開発スタートアップ)

日本語性能



英語性能



赤線：追加学習後 青い面積：学習前

Llama 2に日本語追加データで継続事前学習を行ったSwallow 70Bの性能
日本語ではLlama 2よりも良い性能を示したが、英語では性能がわずかに劣化。
日本語を重視した追加学習による影響か、検討が続いている。
出所) <https://tokyotech-llm.github.io/swallow-llama>

基礎研究から実用レベルへ。独自LLMの実用例

日本語LLMモデルのビジネス利用

■ 株式会社ELYZA

- 日本語特化の独自AI、ELYZA Brainにより、業務効率化を実現



マイナビバイト

一部の求人原稿の作成業務を30%効率化

国産の大規模言語モデルを活用し、500~700時間/月の余剰工数を創造



セキュアな環境での独自LLM提供サービスを開始

NRIグループが提供予定の「プライベートLLM」

- 機密・機微情報を安全に扱えるよう、プライベートクラウドやオンプレミス環境で動作
- 公開モデルのLLMを個別企業の業務に合わせてカスタマイズ

導入コンサルティング

LLMアプリケーション構築
(RAGによる内部データ連携、既存システム連携など)

周辺モジュール
(プライベート音声認識など)

個社カスタマイズLLM
(基盤モデルが公開されたLLMをプリトレーニング、ファインチューニング)

個社専用GPU

GPU運用代行

GPUインスタンス

外部サービス型LLM
(GPT-4など)

← セキュリティ要件に合わせて選択 →

接続サービス (専用線接続、クラウド間接続)

プライベートクラウド (NRIデータセンター上で稼働)

オンプレミス、または
パブリッククラウド

外部サービス、または
パブリッククラウド

カスタマイズによるLlama 2の性能向上見通し

ユースケース	Llama2-70B
ヘルプデスク 質問応答 (RAGなし)	**
ヘルプデスク 質問応答 (RAGあり)	***
対応記録や会議議事録の作成	**
FAQの作成支援	***
マニュアルや案内文の作成	**
アドバイス、カウンセリング	**
顧客対応支援(丁寧表現への変換)	**
顧客対応やSNS等の感情分析	***
文書の属性分類やタギング	***
コールログやメールのコンプライアンス監査	***
アプリ開発、データ分析のコード生成	***

70B=700億 (パラメータ数)

*** = 業務適用可能

** = 課題あり

おわりに：これからの大規模言語モデルの発展

マルチモーダル化：既存AIシステムとLLMアプリケーションの融合

マルチモーダル + マルチエージェントによるECシステム

このストールに似合う
シャツを探して



音声認識技術



音声合成技術

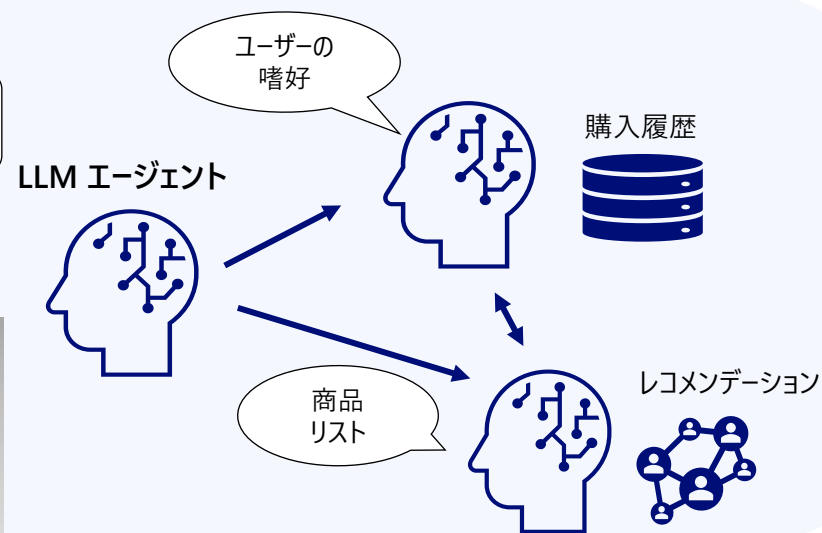
こちらはいかがでしょう



画像認識技術



画像生成技術



発展のキーとなるのは

- ・基盤モデルの精度向上
- ・計算資源 (GPU)
- ・より効率的なLLMアプリアーキテクチャの探索

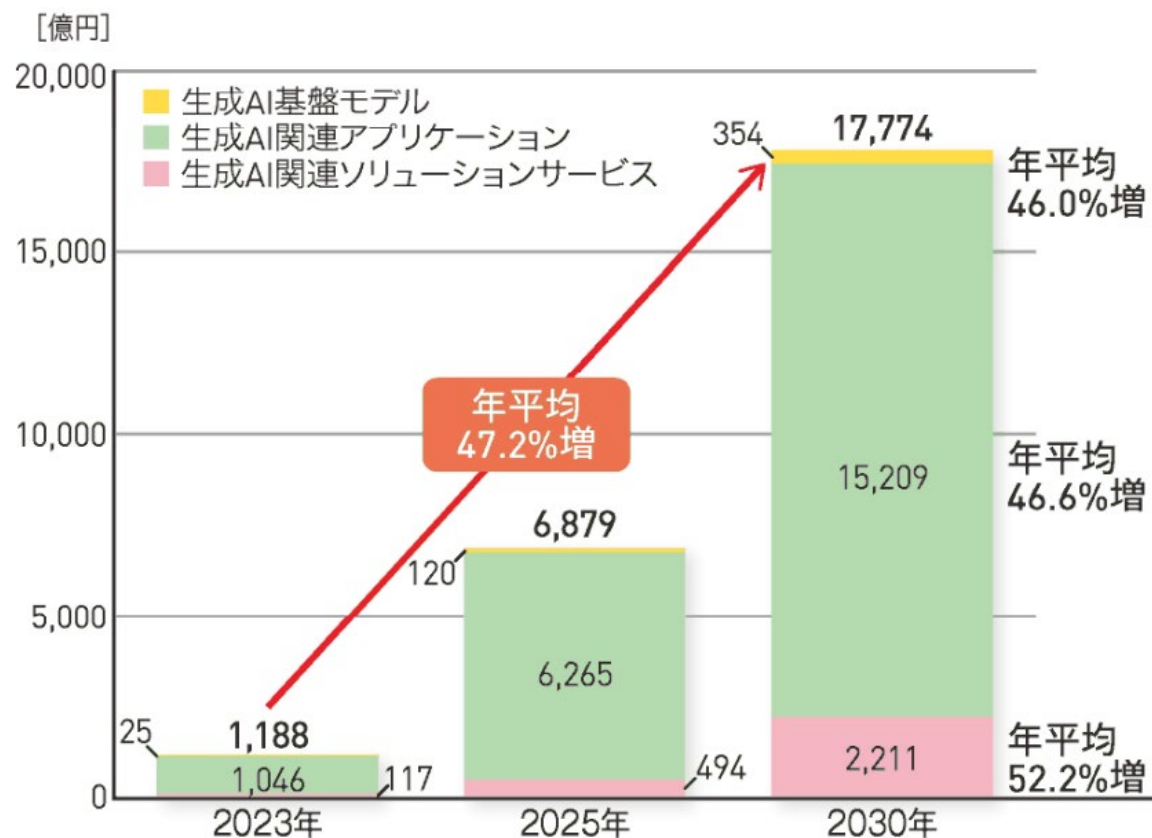
生成AIはこうしてビジネスを変える (業界別の生成AI活用状況と展望)

IT基盤技術戦略室 エキスパートリサーチャー 鷺森 崇

生成AIの市場規模

日本における生成AI市場は、2030年までに年平均47.2%増で成長し、需要額で約1.8兆円の規模に拡大

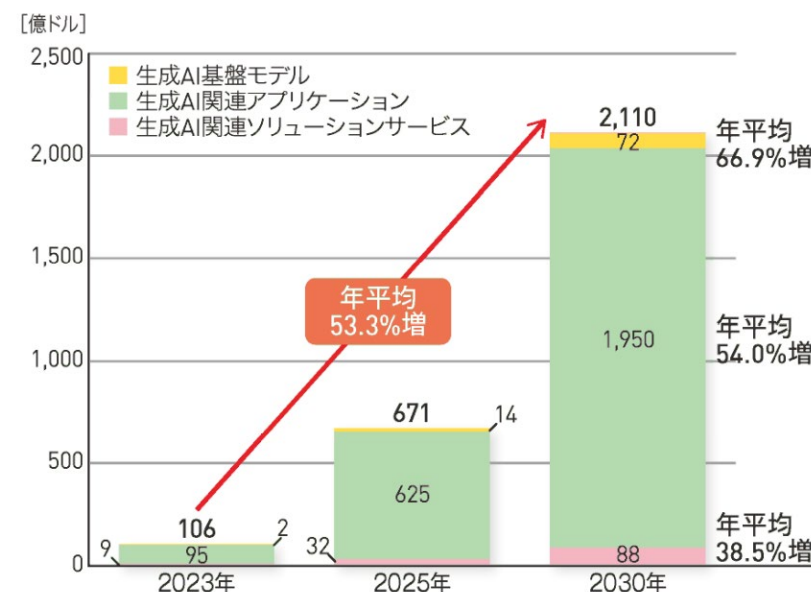
生成AI市場の需要額見通し(日本)



JEITAが、主要国政府の政策や海外先進企業の動向など公知情報の分析と、国内先進企業へのヒアリングをもとに推計。

世界では、2030年に需要額2110億ドルの予測。

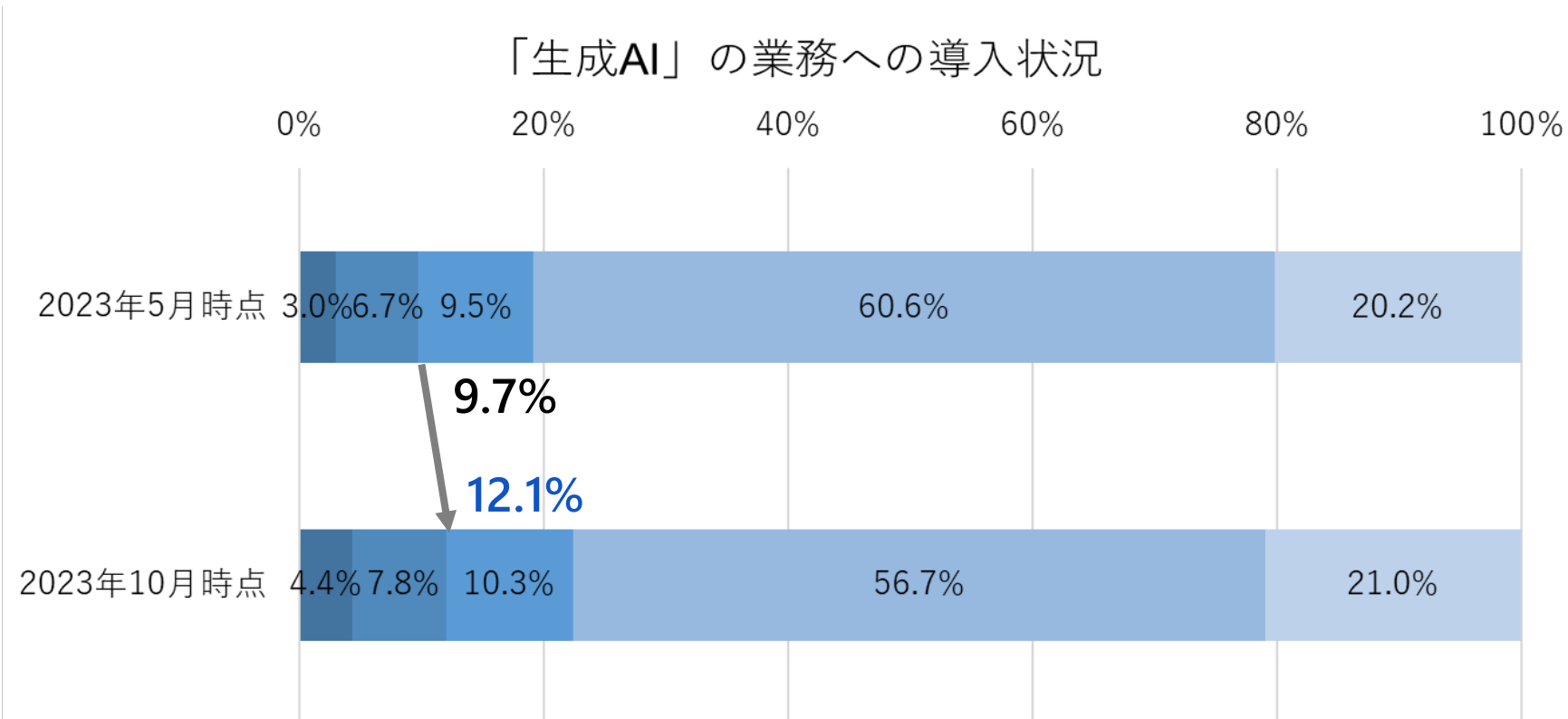
生成AI市場の需要額見通し(世界)



出所) 一般社団法人 電子情報技術産業協会 (<https://www.jeita.or.jp/japanese/topics/2023/1221-2.pdf>)

生成AIの業務活用状況

日本のビジネスパーソンを対象に昨年5月・10月にアンケート調査を実施 生成AIを業務で使っている（試用含む）人は、10月時点で12.1%



- 実際に業務で使っている
- 業務に使えるかどうかを、具体的に試している
- 業務に使えるかどうかを、検討している
- わからない

- 実際に業務で使っている
- 業務に使えるかどうかを、具体的に試している
- 業務に使えるかどうかを、検討している
- 特に検討していない

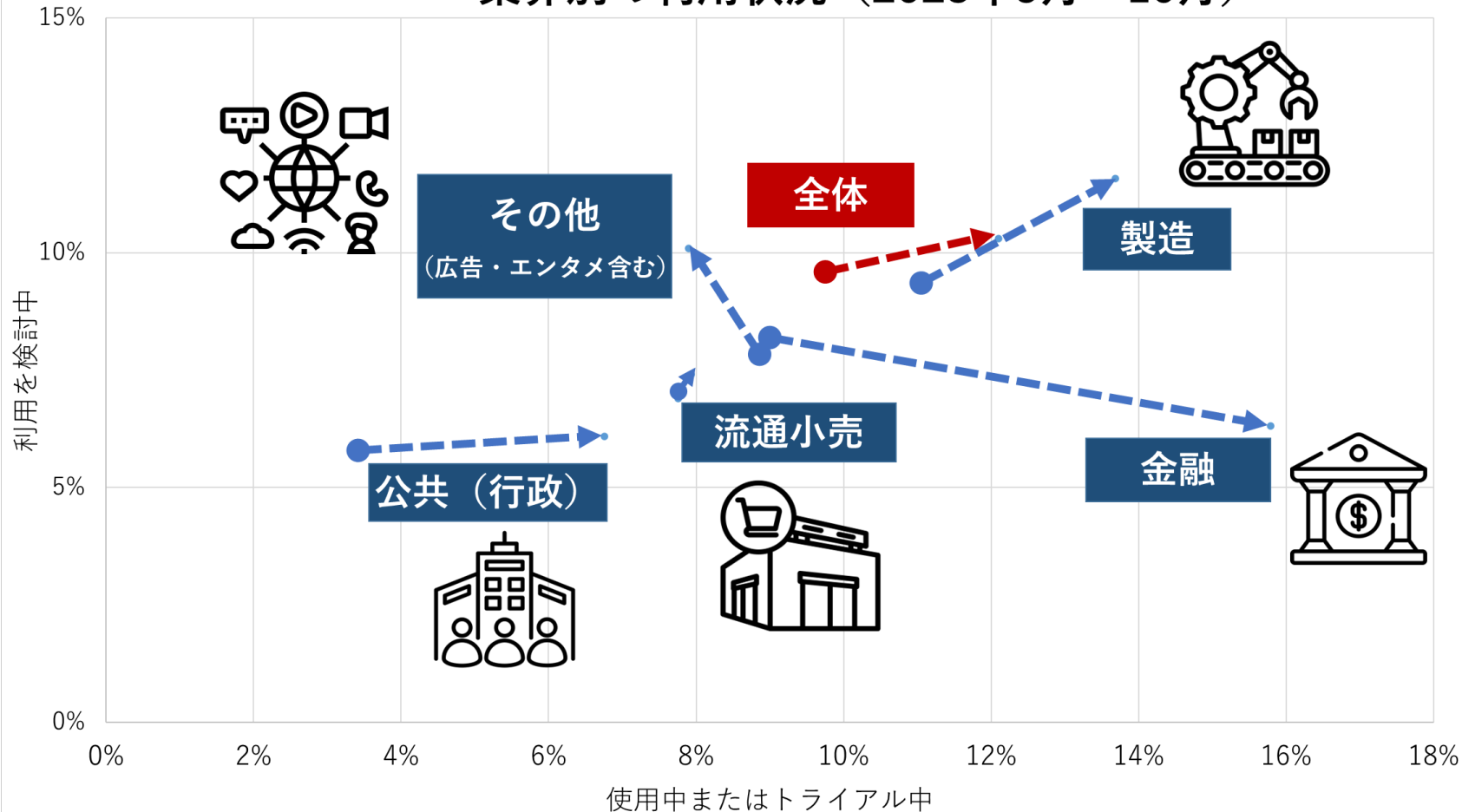
出所)
「AIの導入に関するアンケート調査（5月）」
「生成AI利用に関する就労者調査（10月）」
（野村総合研究所）

業界別の生成AI活用状況の変化

生成AIの業務への導入は、業界によっても差が出ている

- 「金融」や「製造」は、全体と比べて業務への導入が進んできた。

業界別の利用状況（2023年5月→10月）



出所)
「AIの導入に関するアンケート調査（5月）」
「生成AI利用に関する就労者調査（10月）」
（野村総合研究所）

生成AIの活用フェーズを3つに分類

フェーズ2・3に該当する各業界の主な取り組みを紹介

フェーズ1

既存生成AIモデルの利活用

【業界共通】

- 文章・メール文案の作成
- 文書の要約
- アイデアの壁打ち
- プログラミングのサポート

【公共(行政)】

このフェーズの取り組みが中心

フェーズ2

生成AIを既存業務の
高度化・効率化に利活用

【製造】

製品デザインの自動生成

【金融・製造など】

問い合わせ対応

【流通小売】

商品説明文の自動生成

【広告】

広告コンテンツの自動生成

フェーズ3

生成AIにより、自社の業務や
ビジネスモデルを変革

【製造(医薬品)】

AI創薬

【流通小売】

会話型コマース

【エンターテインメント】

シンセティックメディア

画像生成AIを用いた、製品デザイン生成の事例

- 伊藤園は、2023年9月に「お〜いお茶 カテキン緑茶」のパッケージデザイン作成に生成AIを活用。
- プラグ社が開発した『商品デザイン用の画像生成AI』のパイロット版を活用。



出所) プラグ社プレスリリースより
(<https://www.plugin.jp/news/4606/>)

- トヨタ・リサーチ・インスティテュートは、デザイナーのスケッチから、空力性能を最適化した複数のデザイン案を生成する画像生成AIを開発。
- 物理制約を満たすデザイン案が生成できる。

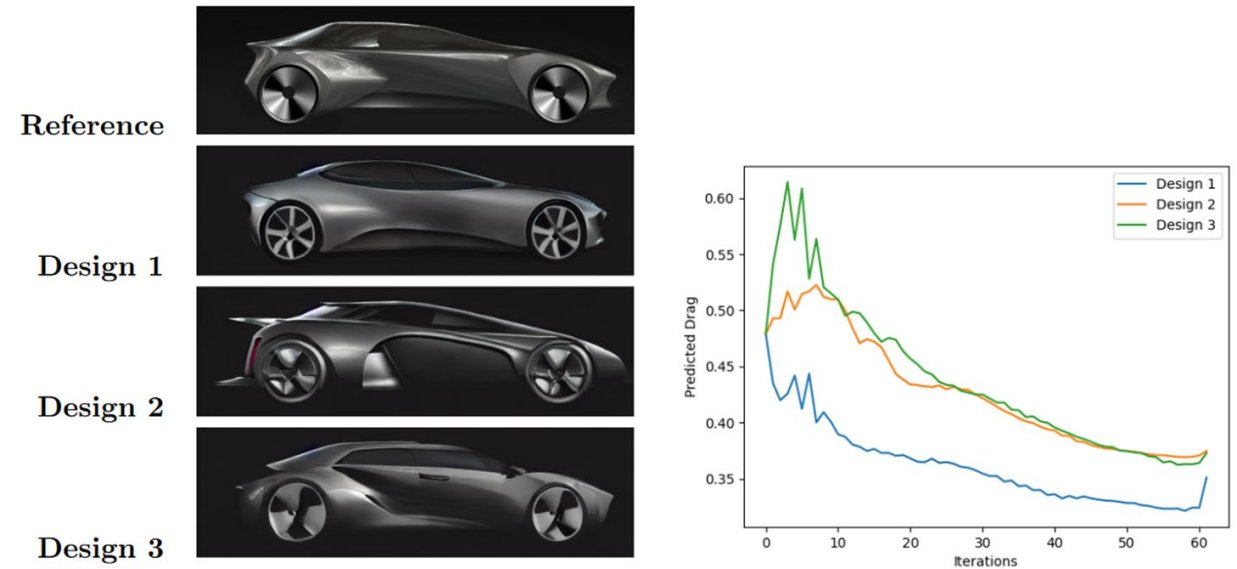


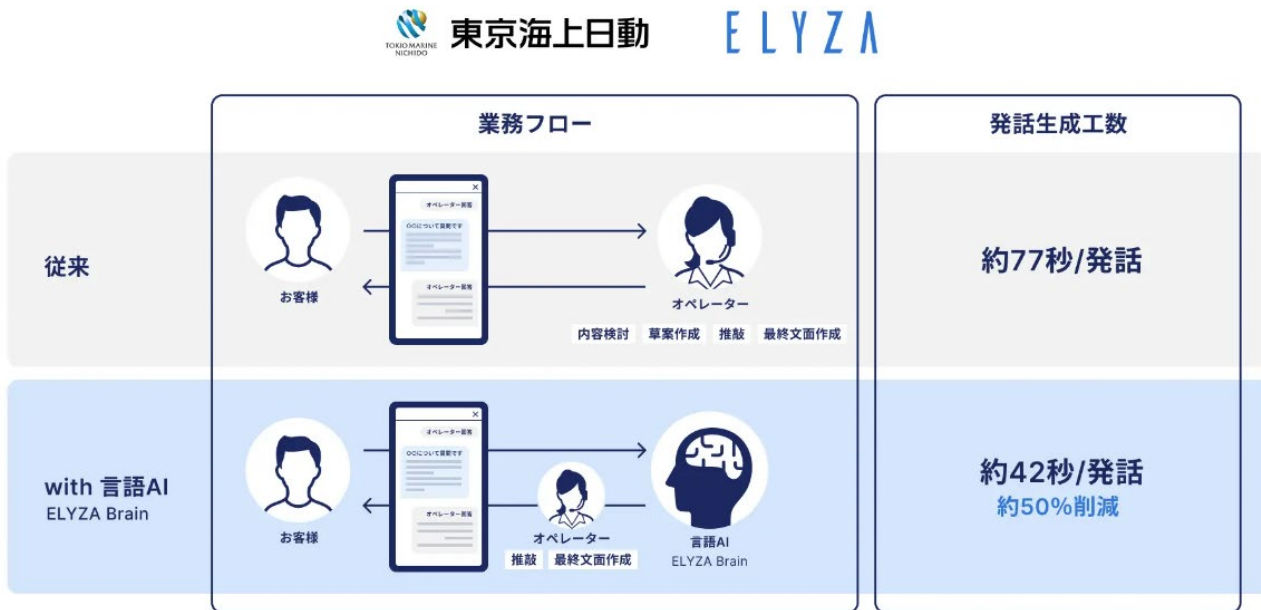
Figure 7: Drag-guided redesigns of a reference image.

出所) Aréchiga, N., Permenter, F., Yuan, C., & Song, B. (2023). Drag-guided diffusion models for vehicle image generation.

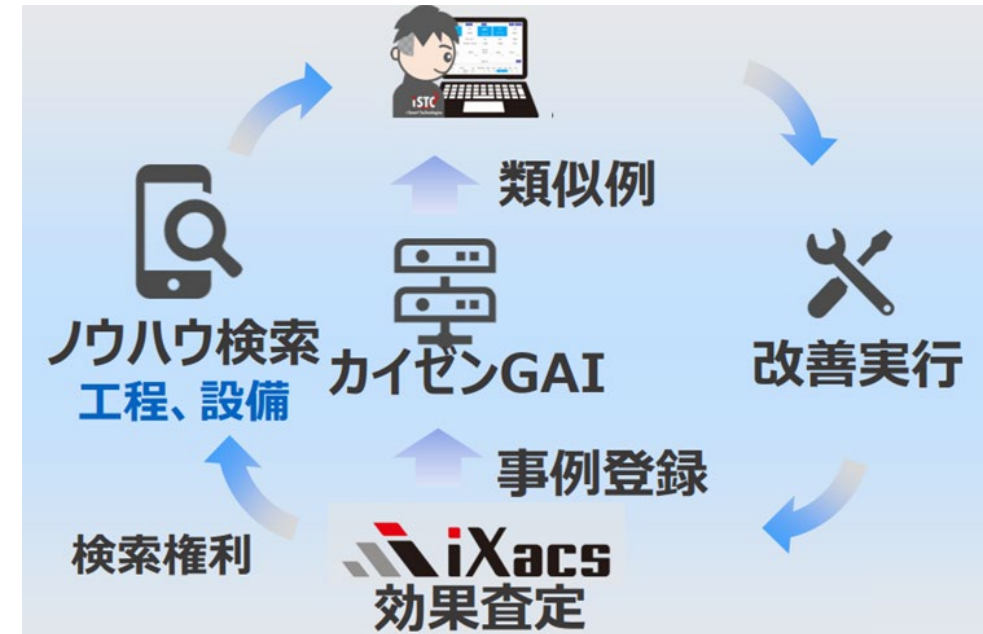
顧客や従業員からの問い合わせに対して、意図を理解し回答する

■ 東京海上日動の事故対応におけるお客様対応業務で、言語AIの回答素案をもとに整形して回答作成することで、**約50%の省力化が見込める**ことを実証実験で確認。

■ 金属加工部品メーカーの旭鉄工では、従業員が知りたいことを**言葉で問い合わせるだけで、適切な過去の改善事例を答える仕組み「カイゼンGAI」**を提供。



出所) ELYZAプレスリリースより
(<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000036.000047565.html>)

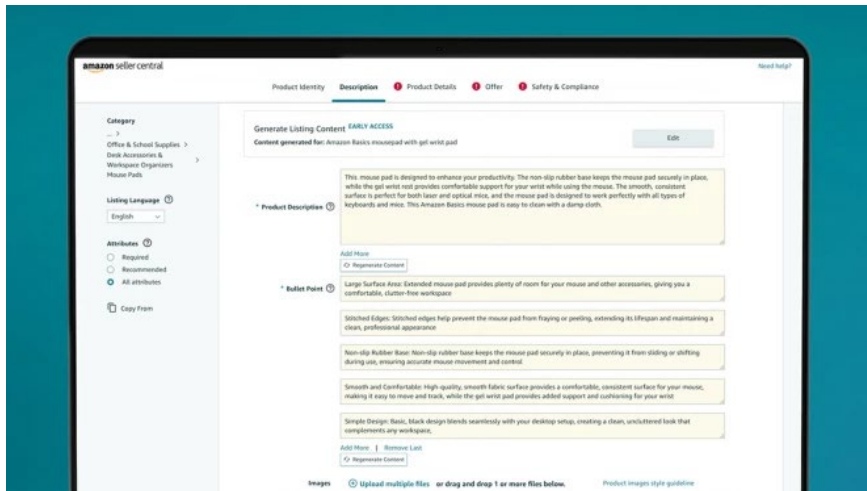
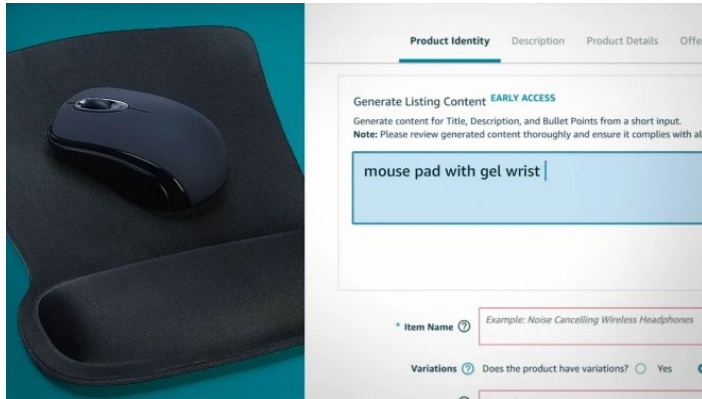


出所) https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/pdf/014_04_00.pdf

業界別の生成AI活用事例 フェーズ2：【流通小売】商品説明文の自動生成

ECサイト等の商品タイトル・説明文などを自動生成する

Amazon 販売者向け 商品説明自動生成ツール



出所) <https://www.aboutamazon.com/news/small-business/amazon-sellers-generative-ai-tool>

eBay出品ツール

Create a listing

Photos



Title

Powered by AI

2020 Panini Chronicles Justin Jefferson
Gridiron Kings Rookie Gem Mint 10

Description

Powered by AI

Own a piece of football history with a gem mint Justin Jefferson Panini Chronicles rookie card. This highly sought-after card features the rising star's iconic moments, showcased in pristine condition. A must-have for collectors and fans alike, celebrating Jefferson's remarkable entry into

出所) <https://ebayinc.to/489tkeT>

メルカリ「AIアシスト」

STEP.1 改善できる商品に対して AIアシストから提案が届く

STEP.2 チャットを開いて AIアシストからの提案を選ぶ



STEP.3 AIアシストの指示に従って 選択を進める



STEP.4 内容を更新して完了すると、 出品商品の情報が更新される

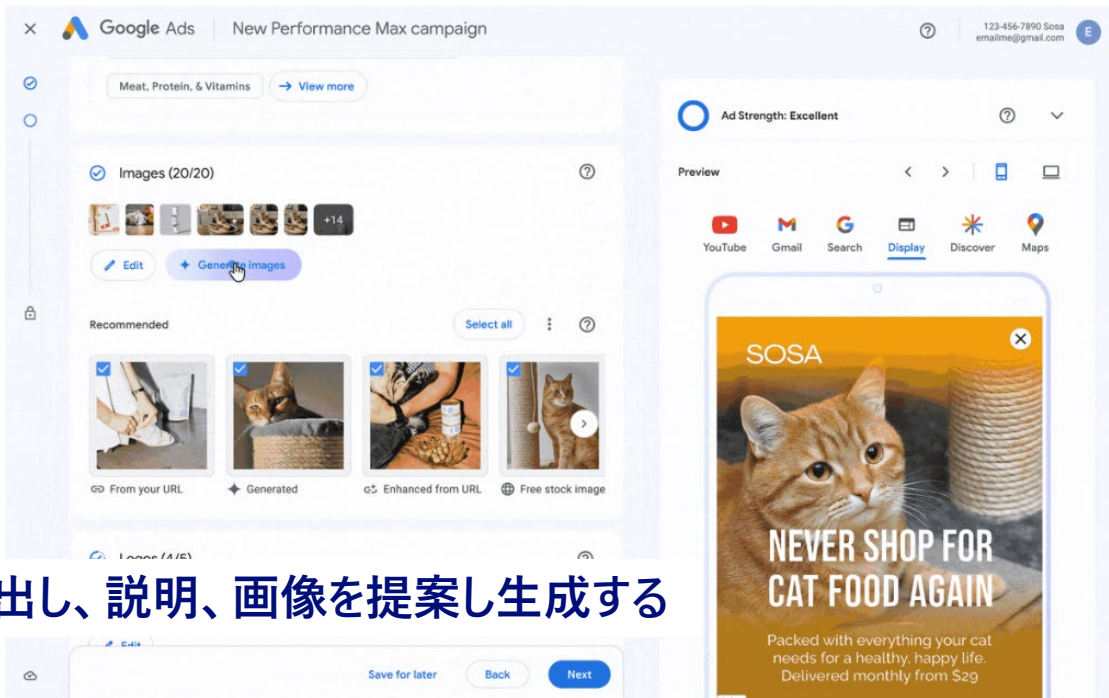


出所) <https://mercan.mercari.com/articles/40564/>

広告コピー・画像・説明文などを自動生成する取り組みが進む

- グーグルは、**生成AIを活用して広告クリエイティブを自動生成する機能**をP-MAX（グーグルの提供するあらゆるチャネルで広告配信できるサービス）に追加。

- 電通グループの「ムゲンAI」は、デジタル広告運用プロセスに特化したAIを駆使し、**広告の訴求軸定義、クリエイティブ(CR)生成、効果予測、改善支援までを一貫して行うソリューション**。

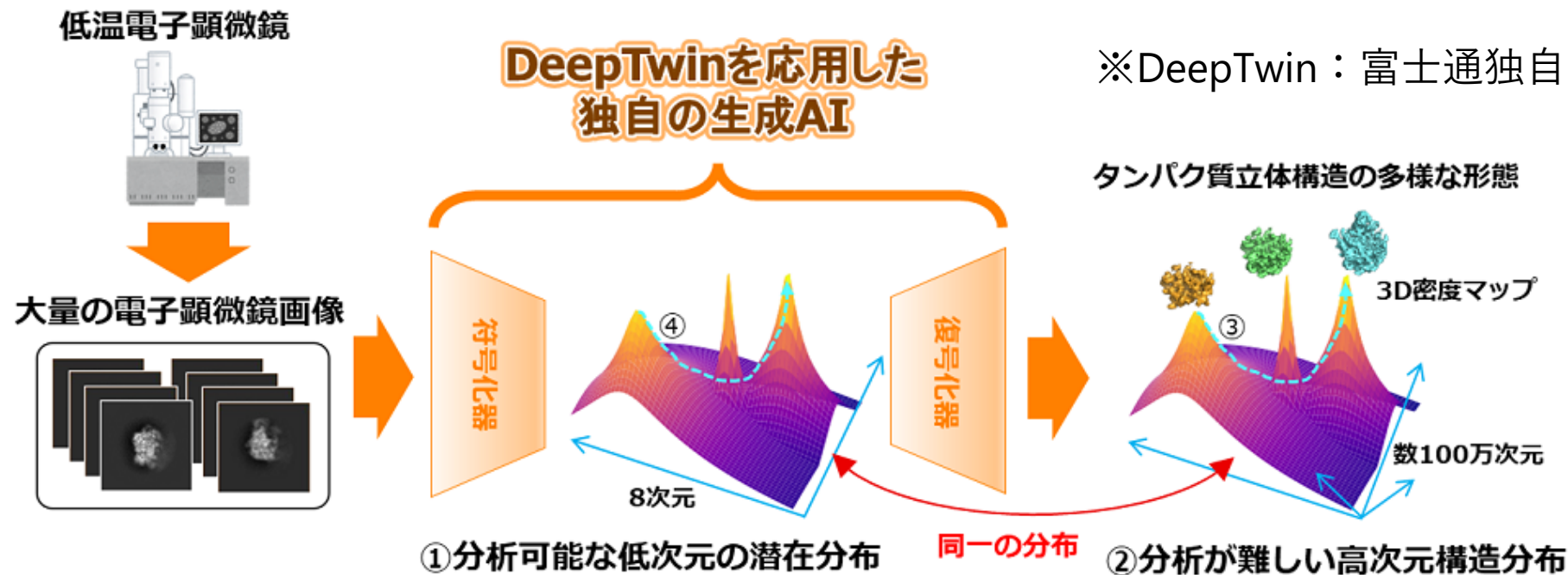


見出し、説明、画像を提案し生成する



生成AI活用により、AI創薬の効率化・自動化が加速

- 富士通と理化学研究所は、大量の電子顕微鏡画像から、タンパク質の構造変化を3D密度マップの連続的な変形として予測できるAI創薬技術を開発。
- 従来の手順に比べて**10倍以上高速にタンパク質の形態と構造変化の推定が可能**になり、細菌やウイルスなどの標的タンパク質に結合する薬剤の設計過程を革新できる。

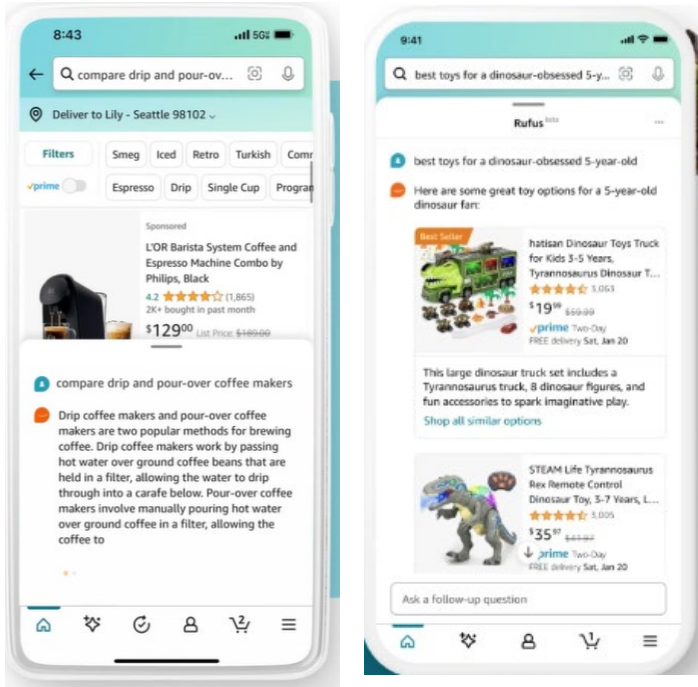


業界別の生成AI活用事例 フェーズ3：【流通小売】会話型コマース

生成AIを活用し、ユーザーのニーズやコンテキストを理解し提案する、ショッピングAIアシスタントを搭載した会話型コマース

■ Amazonは、2024年2月に生成AIを活用したショッピングアシスタント「Rufus」を発表。米国の一部ユーザー向けに公開。

■ ウォルマートは、CES2024 で生成AIを活用した顧客の商品探しを支援するツールを発表。ユースケースを伝えることで、商品リストを提示。



「ドリップ式と抽出式のコーヒーマーカーを比較する」や、「5歳の子供に最適な恐竜のおもちゃ」のような質問に対して、回答や提案を行う



例えば、「フットボール観戦」というテーマに対して、スナック菓子、ドリンク、大型テレビなどを提示

出所) <https://www.aboutamazon.com/news/retail/amazon-rufus>

出所) Walmart Keynote at CES 2024より (https://youtu.be/uHKFP_Y-FF8)

業界別の生成AI活用事例 フェーズ3：【エンターテインメント】シンセティックメディア

生成AIを用いたAIタレントやバーチャルヒューマンのサービスが、エンターテインメント領域でのシンセティックメディア活用を推進

- シンセティックメディアとは、AIを用いて生成された文章、画像、音声、動画、音楽などのデジタルコンテンツのこと。
- 生成AIにより、**低コストで多様な表現のAIタレントやバーチャルヒューマンの活用が可能に。**

伊藤園のCMで起用（日本初）



出所)
<https://www.youtube.com/watch?v=DEoG1NCdmdY>

パルコの生成AI広告



出所)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002679.000003639.html>

韓国のバーチャルアーティストMIDNATT



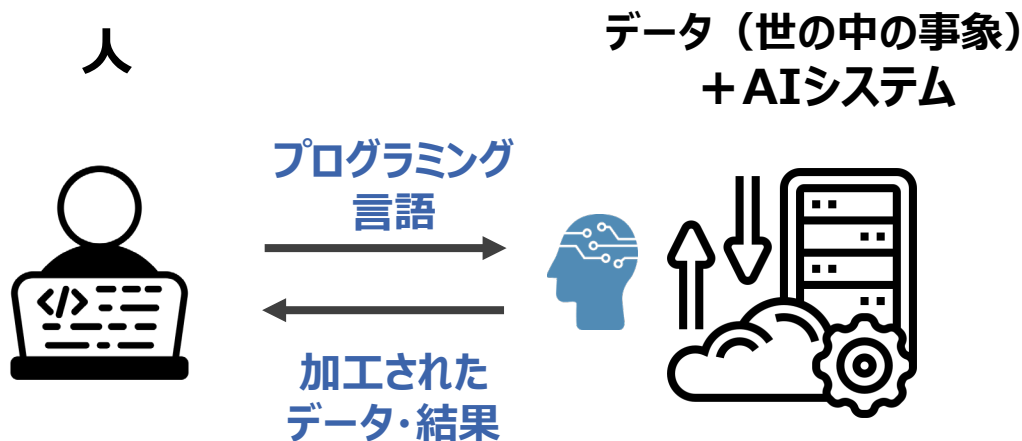
出所) <https://youtu.be/l19AEmRvh-Y>

生成AIのビジネス活用の展望

生成AIは、人とデータやAIシステムとの対話の仲介者（エージェント）になり、誰もが言葉でデータから価値・洞察を抽出できるようになる

■ 今後は、生成AIエージェントが人の指示や意図を理解し、データやAIシステムとの対話を補助。

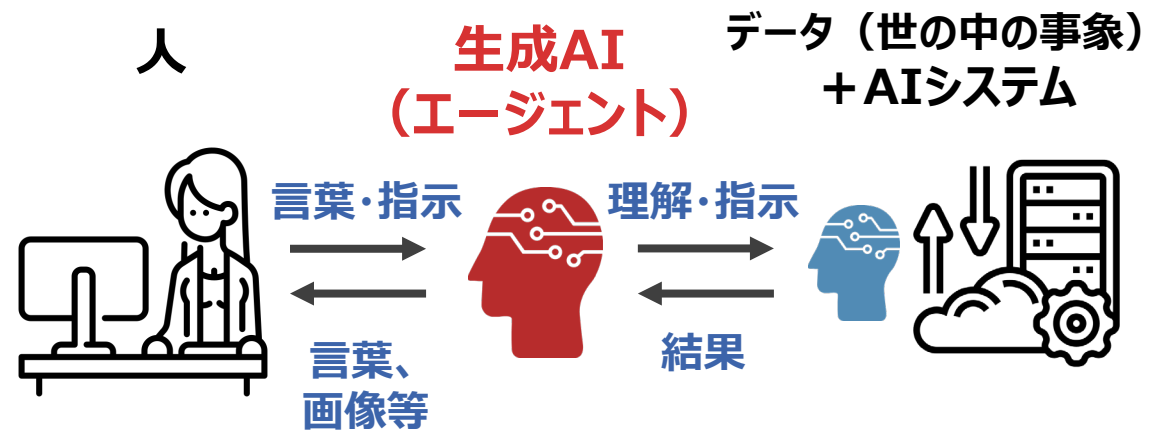
これまで



専門知識がある人しかデータ・AIを活用できなかった

出所) 野村総合研究所

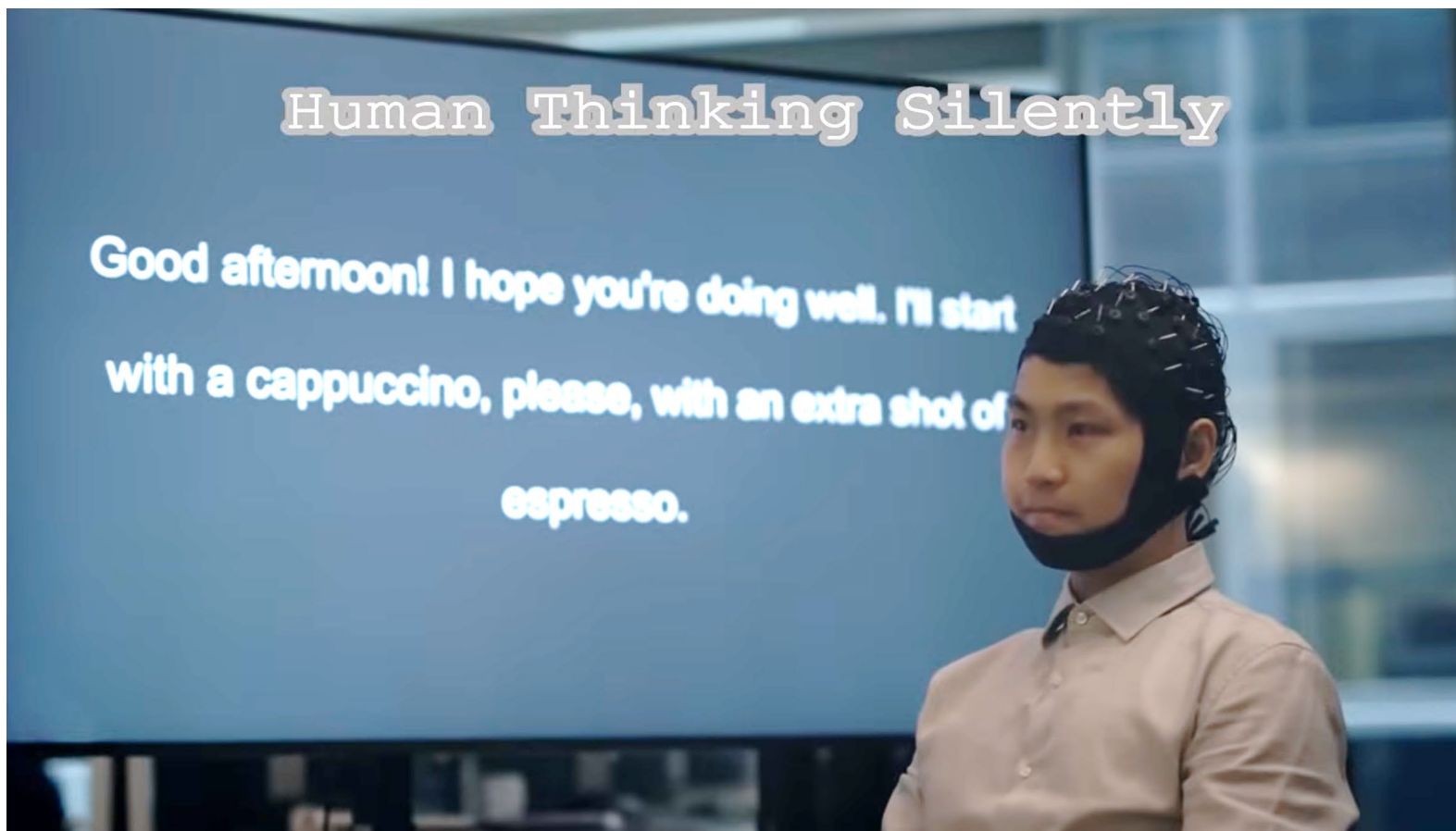
今後



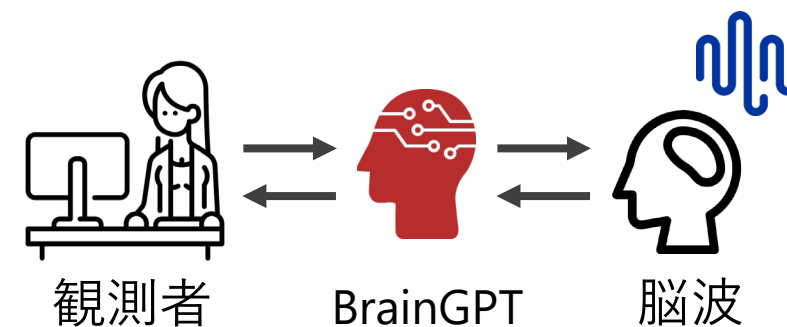
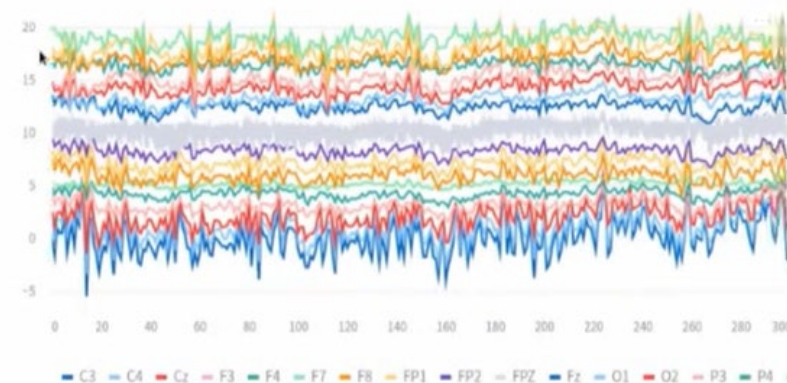
誰もがデータ・AIを活用できるようになる
(=データサイエンスの民主化)

シドニー工科大学の人間の脳波を言語に翻訳する「BrainGPT」

- 2023年12月に開催された世界的なAIカンファレンス「NeurIPS」で発表され話題に。



BrainGPT System



生成AIエージェントが、ビジネスにおけるデジタルアシスタントや、日常生活におけるデジタルコンシェルジュとなる

効率的な
情報の取得

パーソナライズ
された体験

ヘルスケア
サポート

タスク管理と
自動化



ビジネスにおける
デジタルアシスタント

日常生活の
デジタルコンシェルジュ



購買の意思決定
(マシンカスタマー)

問題解決のための
アドバイス

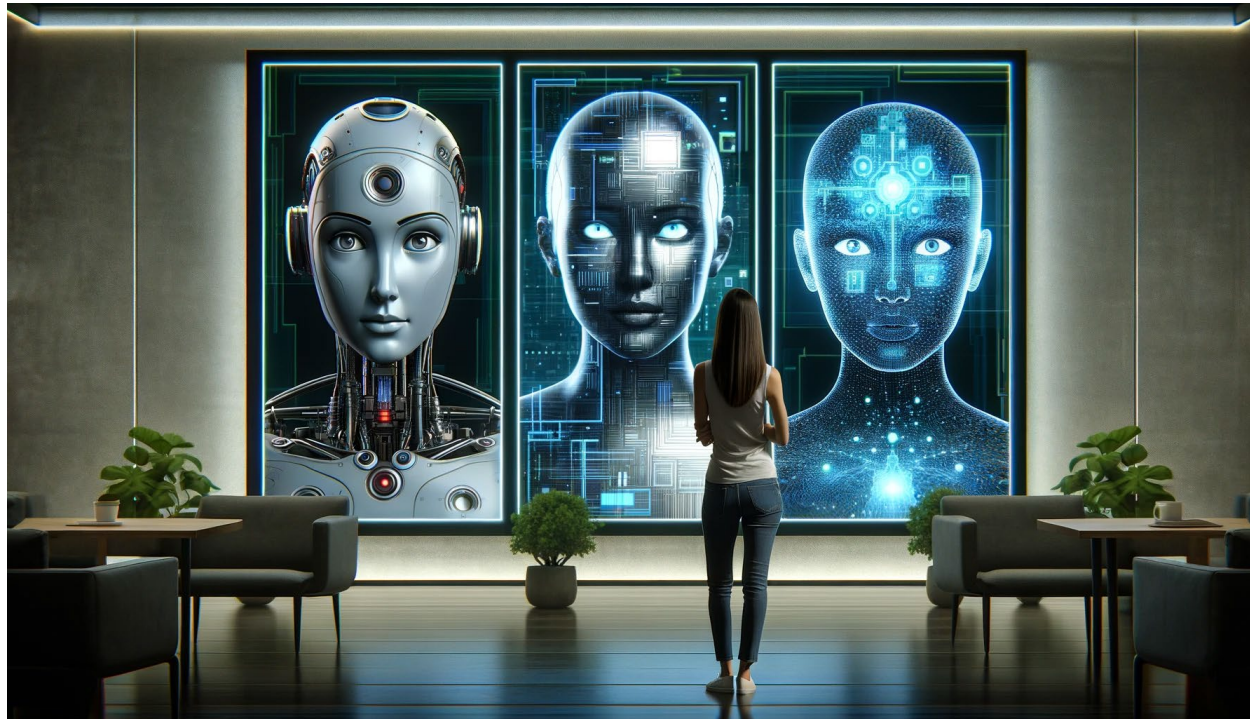
好みに合わせた
コンテンツ推奨

アイデア
ジェネレーション

学習支援

複数の生成AIエージェントの活用で、回答の精度が向上する可能性

- マイクロソフトは2023年9月に、相互に対話してタスクを解決できるマルチエージェントフレームワーク「AutoGen」を公開。
- AutoGenでは、複数のAIエージェントに役割を持たせて、それぞれの立場でタスクを遂行することで、より高精度なタスク遂行を実現する。



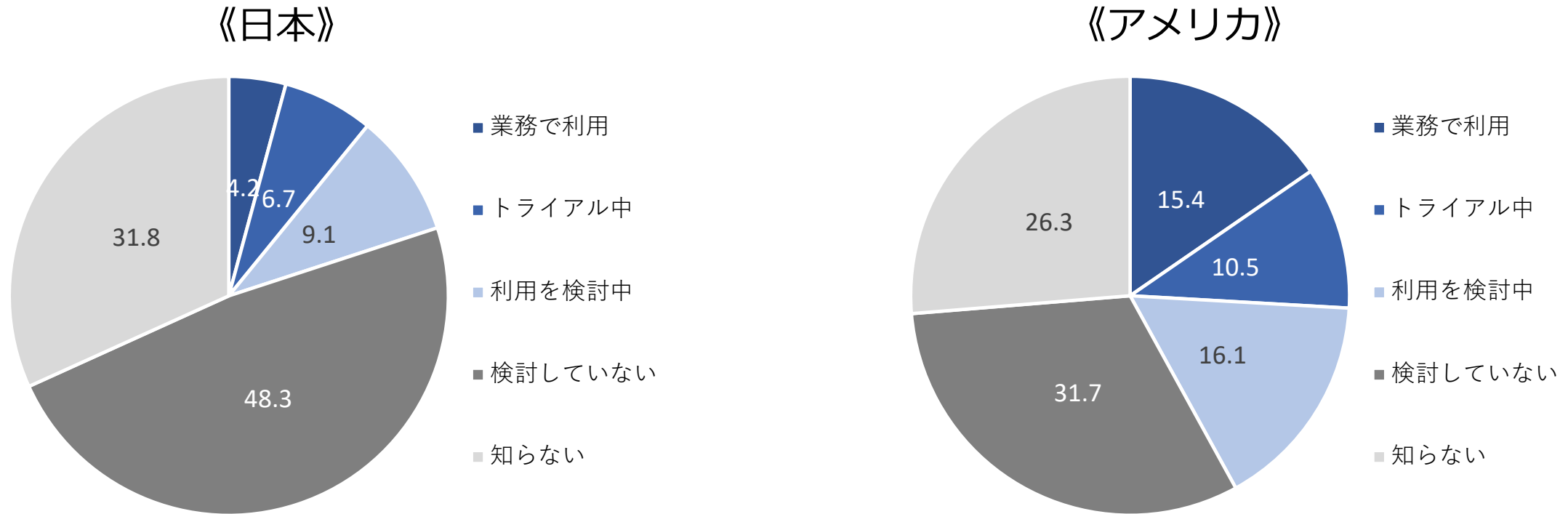
出所) 野村総合研究所

生成AIで変わる未来

未来創発センター 生活DX・データ研究室長 塩崎 潤一

アメリカと比べると日本の生成AIの利用は遅れている

日米における生成AI導入の差

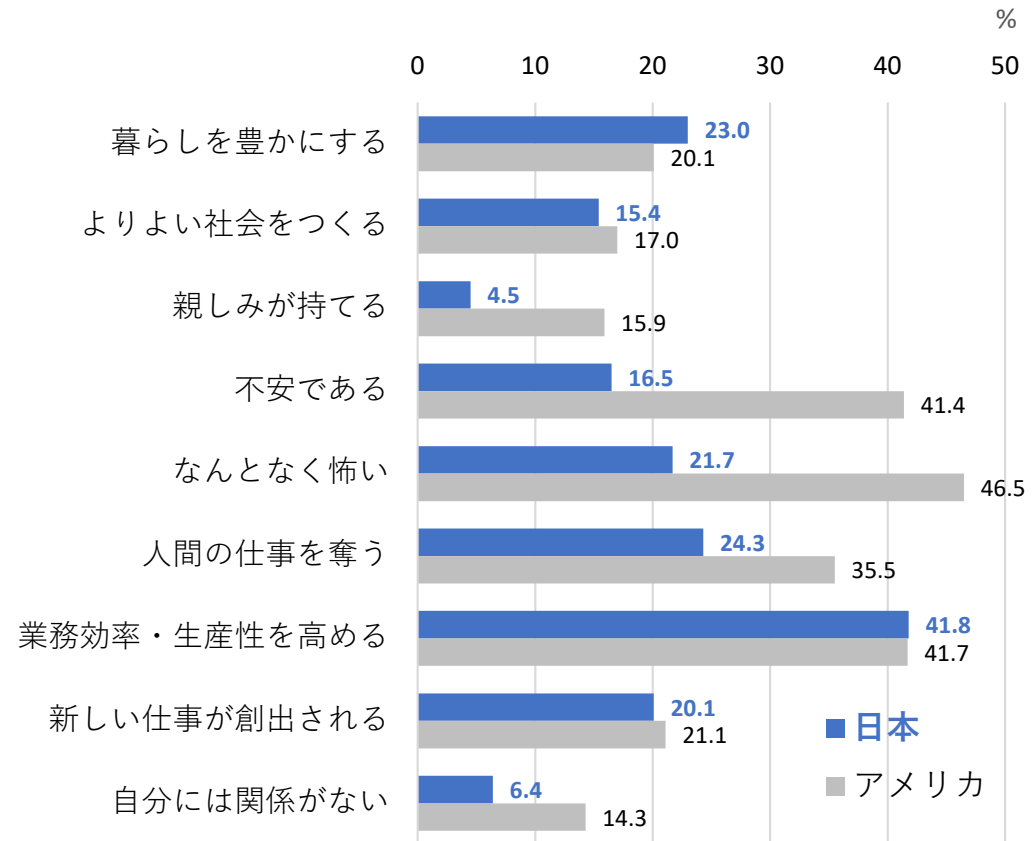


出所) 「一般ビジネスパーソン調査の日米比較」(データサイエンティスト協会、2023年8月)
20~69歳、性・年代で均等割付、日本2,000サンプル、アメリカ1,000サンプル

AIに対するネガティブなイメージはアメリカの方が強い

- 「暮らしを豊かにする」意識は同水準
- アメリカでは「不安」「怖い」が多い
- 「人間の仕事を奪う」イメージは、日本ではまだ実感がない

日米におけるAIイメージの差

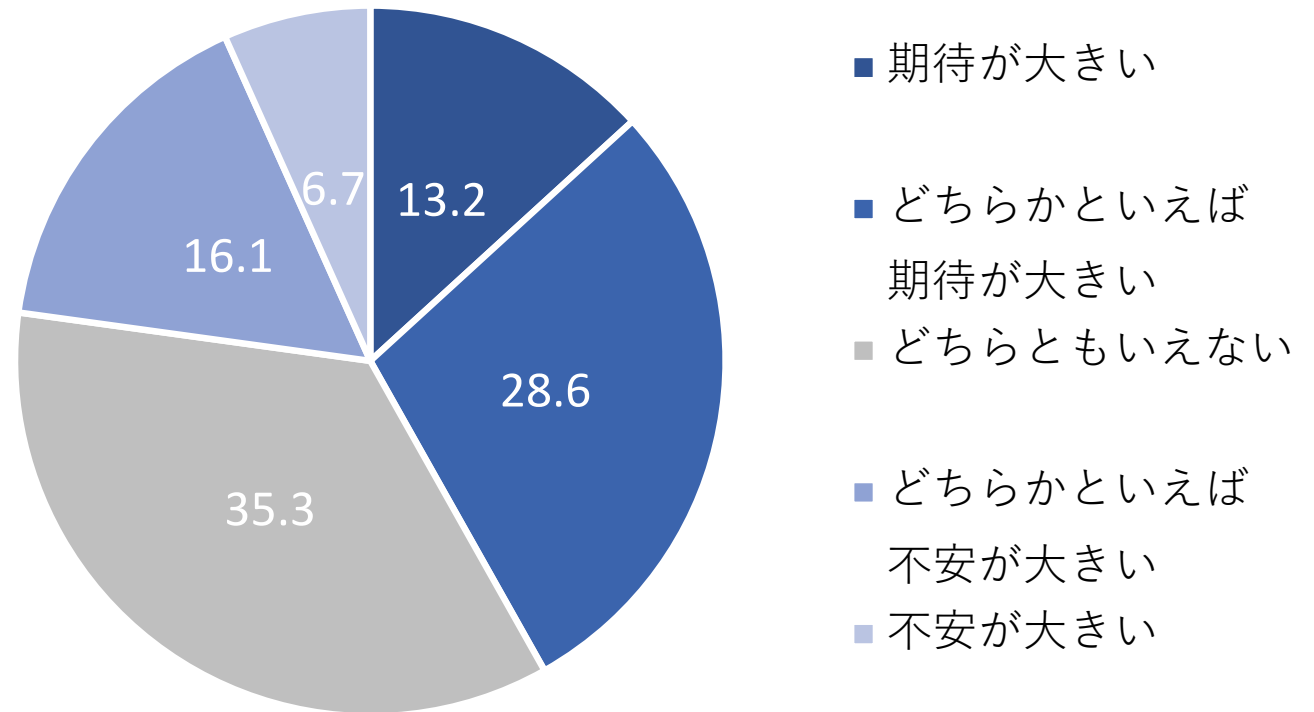


出所)「一般ビジネスパーソン調査の日米比較」(データサイエンティスト協会、2023年8月)
20~69歳、性・年代で均等割付、日本2,000サンプル、アメリカ1,000サンプル、複数回答

AIに対する期待が強い日本人

- 生成AIに期待している肯定派の割合は41.8%であり、否定派の22.8%を大きく上回る
- 前ページのデータにもあるように、仕事を奪われるという危機感は、日本人では低いため、生成AIに対する期待は強いと考えられる

生成AIに対する期待

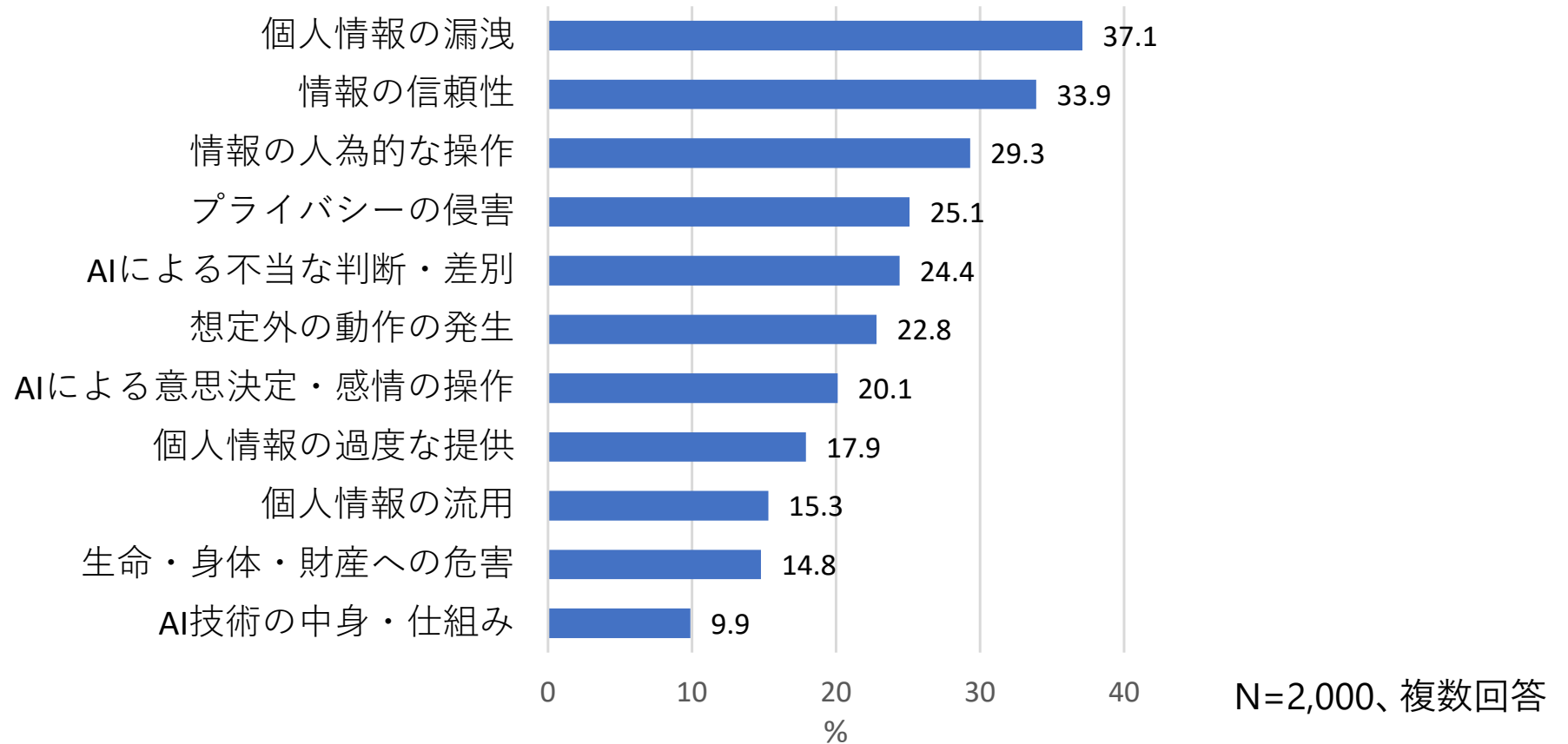


N=1,409 (生成AIを知っている人に限定して調査)

出所) 「生成AI利用に関する就労者調査」(野村総合研究所、2023年10月)

AIに対する不安は「個人情報」「プライバシー」、 情報の「信頼性」「操作（悪用）」など

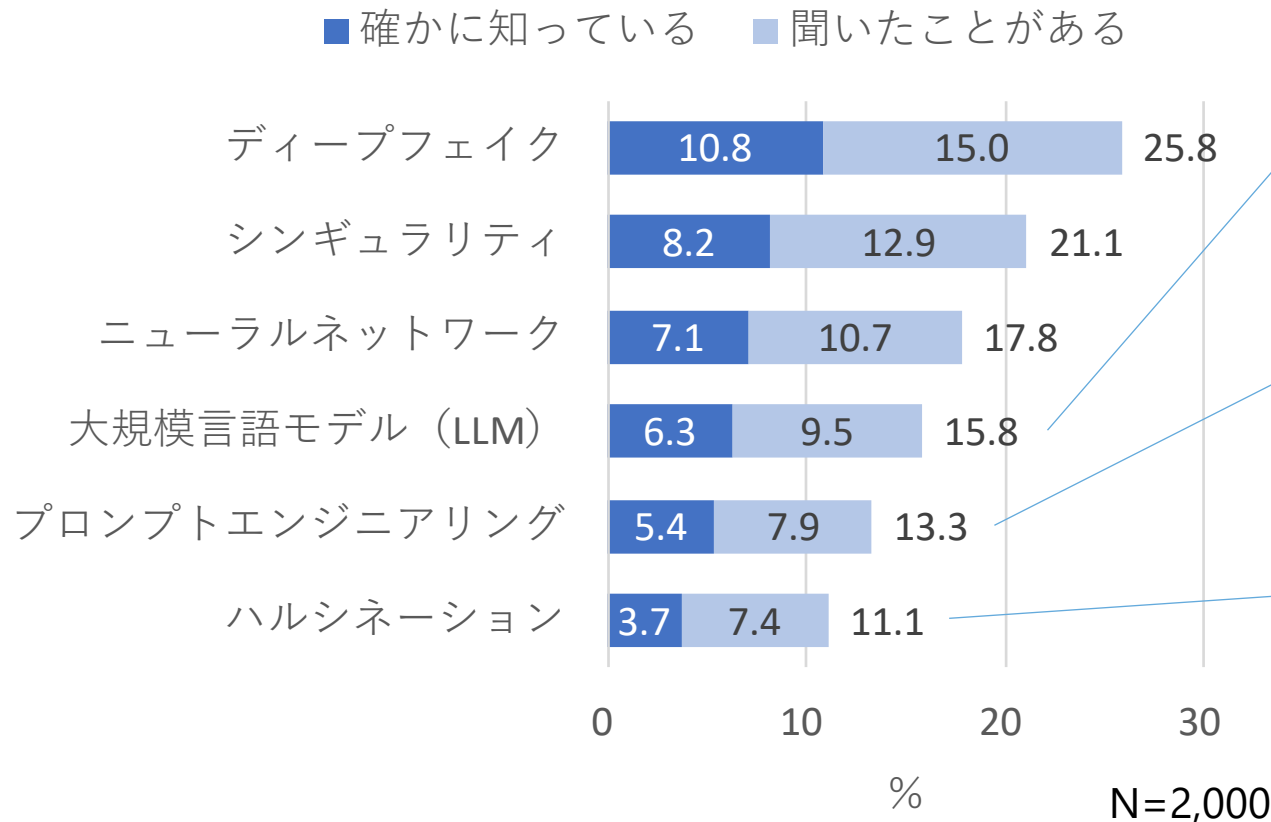
生成AIに対する懸念事項



出所) 「生成AI利用に関する就労者調査」(野村総合研究所、2023年10月)

日本では「プロンプトエンジニアリング」、「ハルシネーション」など、生成AIの特徴を表す専門用語までは浸透していない

生成AIに関連する専門用語の認知



【用語の解説】

非常に巨大なデータセットとディープラーニング技術を用いて構築された言語モデル。「計算量」「データ量」「パラメータ数」を大規模化。

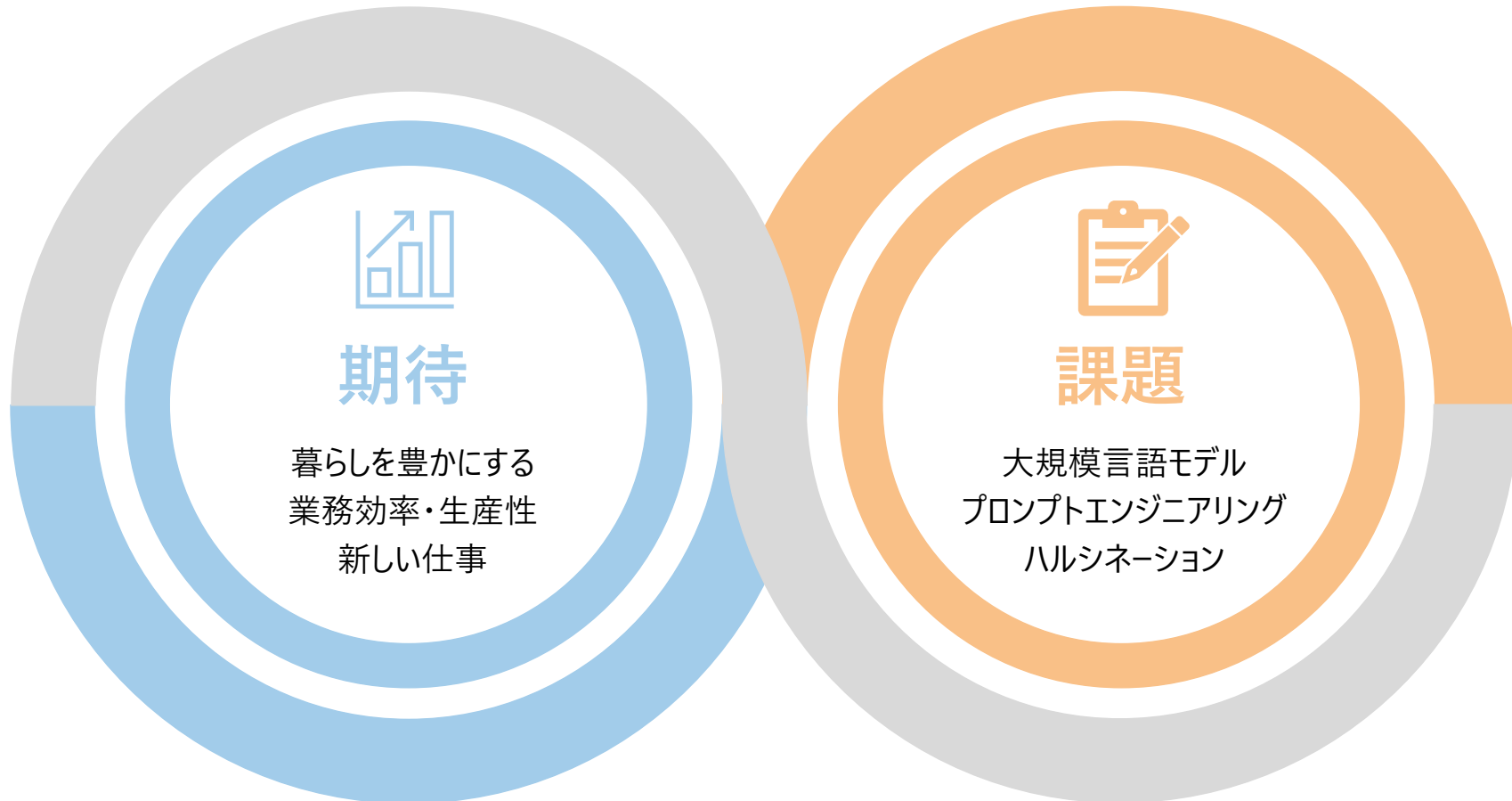
AIから望ましい出力を得るために、指示や命令を設計、最適化するスキル。命令（プロンプト）の出し方によって、出力の「質」が大きく異なる。

AIが事実に基づかない情報を生成する現象のこと。AIが幻覚（＝ハルシネーション）を見ているかのように、もっともらしい嘘を出力する。

出所) NRI用語解説 <https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary>

出所) 「生成AI利用に関する就労者調査」(野村総合研究所、2023年10月)

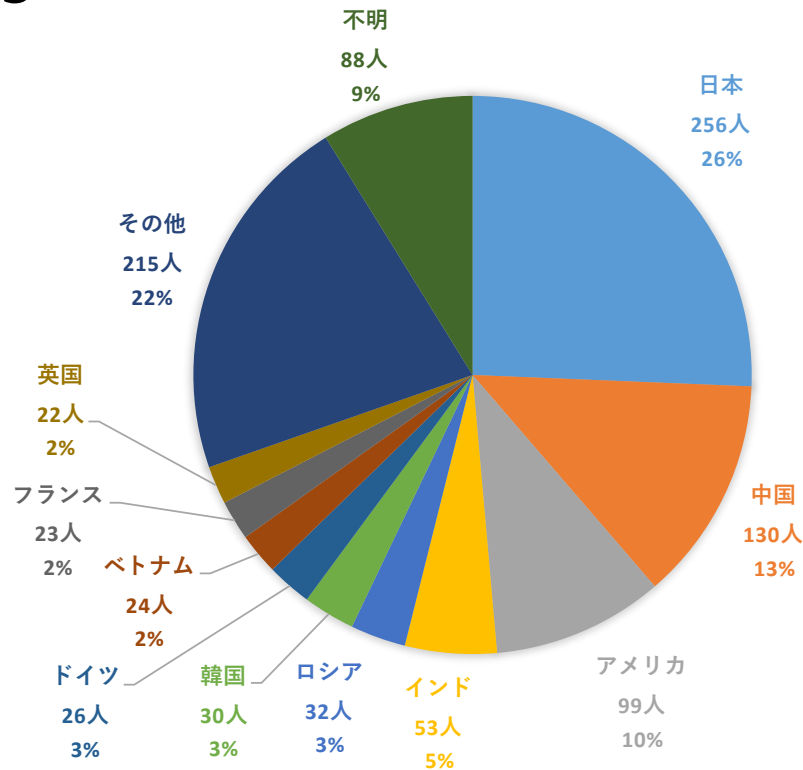
生成AIを健全な形で発展させていくためには、 生活者の「期待」を醸成することと、「課題」を伝えることが重要



生成AIを活用する人材として日本のポテンシャルは高い

■ データサイエンティストの世界的コンペティションにおいて、優秀な成績を収めている日本人が多い

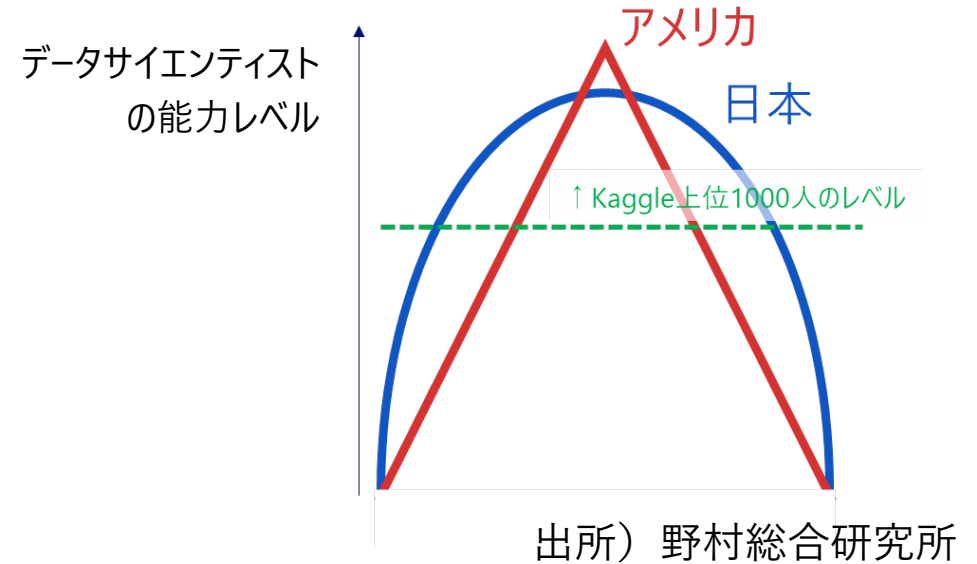
Kaggle世界ランキング上位1,000人の国別人数



注) Kaggle (世界最大のデータサイエンスプラットフォーム) にて開催される Competitionsにおけるランキング (2023年5月時点)

出所) <https://www.kaggle.com/datasets/hdsk38/comp-top-1000-data>

日本とアメリカの人材の違い (イメージ)

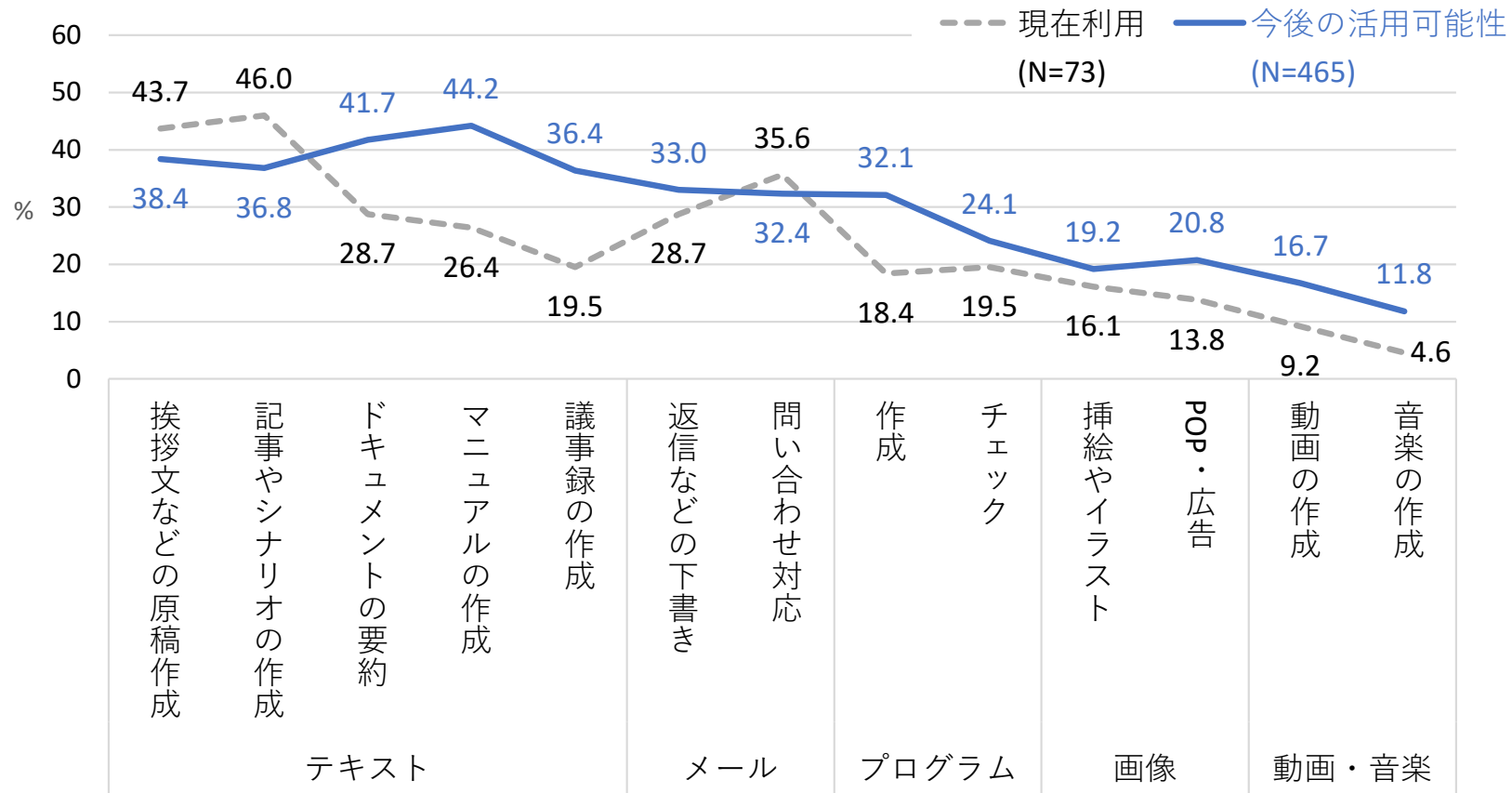


- 日本は最上位層は少ないが中間層が厚い
- 生成AIを「ビジネス応用」する人材のポテンシャルが高い可能性

生成AIのこれから：日常業務のサポートから創造的業務へ

サポート業務からクリエイティブな業務への生成AIの活用が進む

「生成AI」利用の業務内容



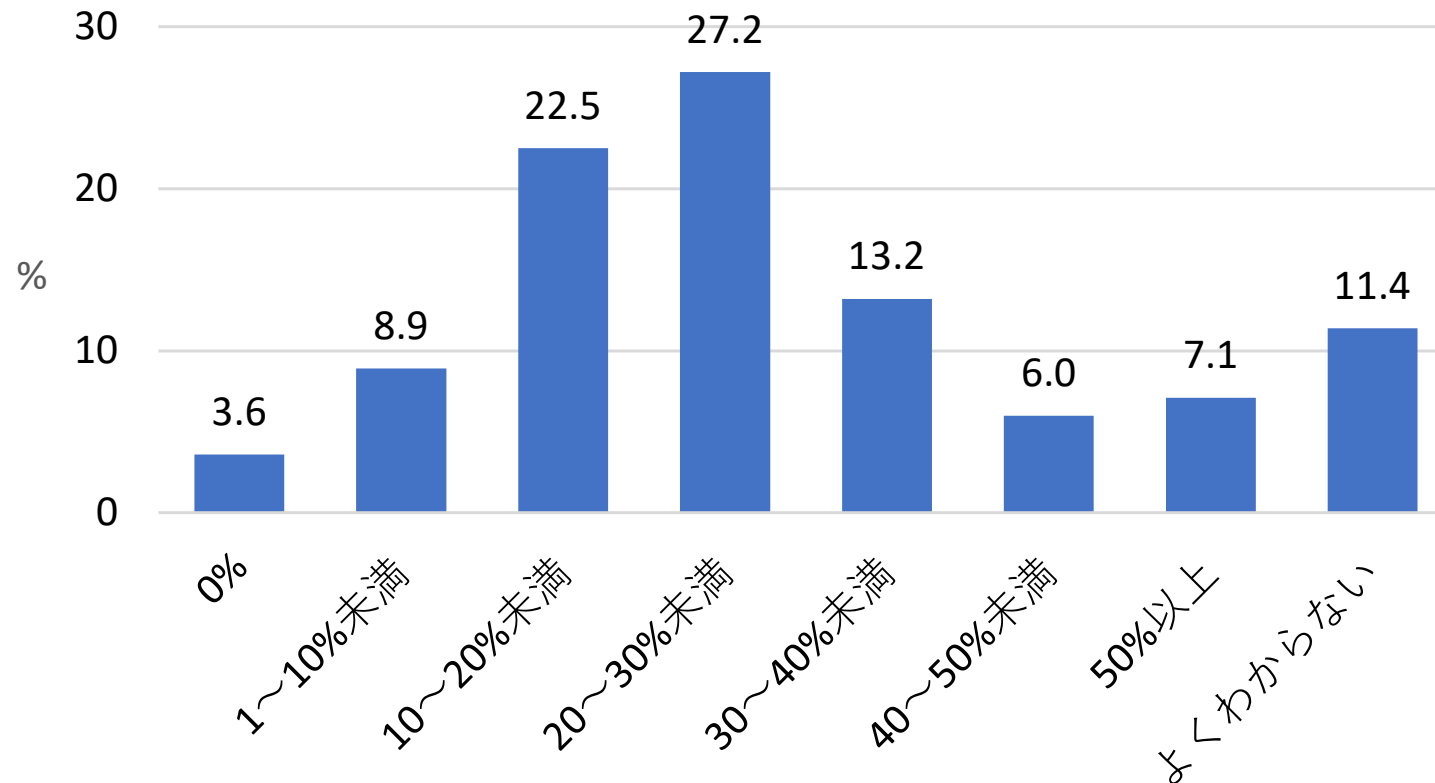
情報収集の考え方

ググる

ChatGPTる

生成AIで業務の『25%程度』は効率化されている

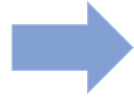
生成AIを導入することで現在業務が
自動化・効率化される割合



AIの得意な処理・業務から、将来できることには幅広い可能性がある

AIの得意なこと

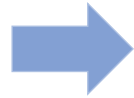
ヒトの作業の代替



自動運転・輸送

介護ロボット

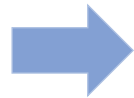
個別ニーズへの対応



AI個別教師

投資サポート

大量のデータ処理



病気診断・創薬

1 to 1 マーケティング

将来の予測



犯罪予測

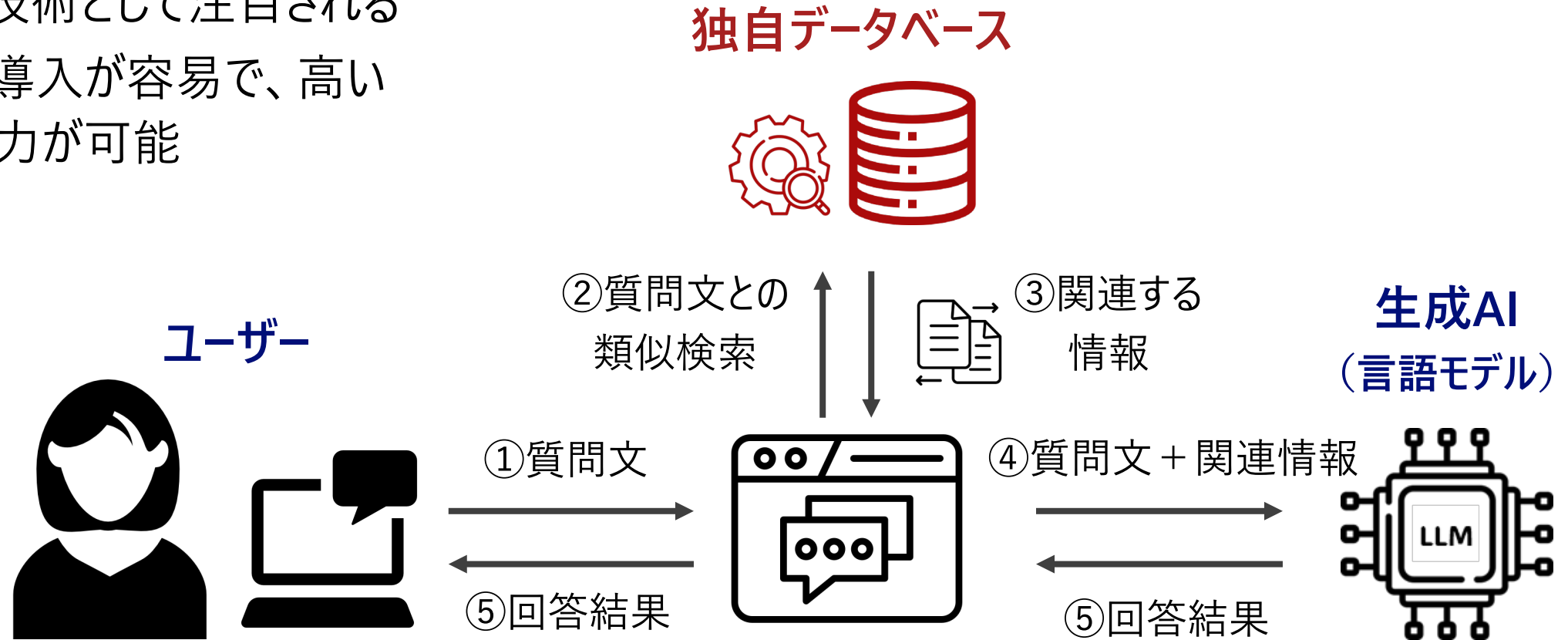
保険リスク算定

将来的にAIが特に能力を発揮する分野（例）

注目されるRAG（検索拡張生成）：Retrieval Augmented Generation

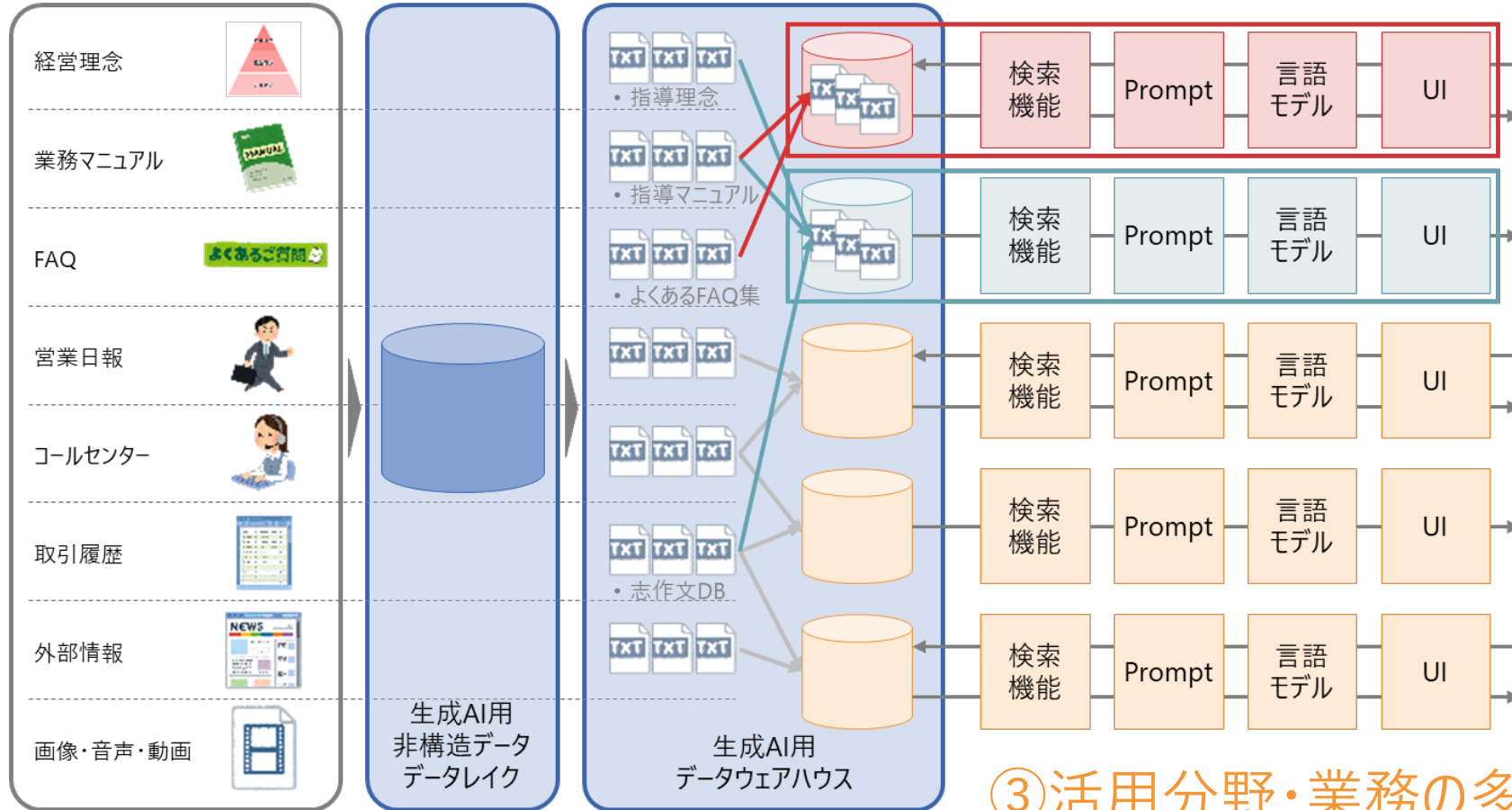
- 大規模言語モデルの知識を拡張する技術として注目される
- 比較的、導入が容易で、高い精度で出力が可能

RAG（検索拡張生成）の仕組み



今後は様々な形式のデータ整備が企業の競争力を左右する

①独自の生成AIの仕組み化



③活用分野・業務の多様化

②データの整備、生成AIへの活用

出所) 野村総合研究所

生成AIで「シンギュラリティがやってくる」

The Singularity
is here.

- 「技術的特異点」。AIが賢くなり人間の脳と同レベルになるタイミングのこと
- 2045年ごろと言われていたが、生成AIの進化で、タイミングが少し早まるとも

- 生成AIが突如現れたように、シンギュラリティはいつきてもおかしくない
- 生成AIの先にある汎用人工知能（Artificial General Intelligence：AGI）」
- 汎用人工知能は、人間に近い思考回路や感情を持ち、さまざまなタスクや問題に対応できる

生成AIが第4次AIブームを起こしている

1950年

1970年

1980年

1990年

2005年

2020年

2023年～

第1次AIブーム 探索・推論

- ・「人工知能」という言葉
- ・ニューラルネットワーク
- ・自然言語プログラム
- ・大型コンピュータ

第2次AIブーム ルールベース

- ・インターネット
- ・エキスパートシステム
- ・ニューラルネットワークの応用研究
- ・パソコン

第3次AIブーム 機械学習

- ・ビッグデータ時代
- ・ディープラーニング
- ・画像認識（猫）
- ・alphaGoの勝利
- ・スパコン

第4次AIブーム 生成AI

- ・ChatGPT、生成AI
- ・マルチモーダル
- ・汎用人工知能
- ・GPU

出所) 野村総合研究所

データ流通量

まとめ

生成AIの可能性と変わる未来

現在起こっている変化

生成AIは 利用から活用へ

- 独自データ活用
- 独自アプリ開発
- RAGの精度向上

技術の変化

大規模言語モデル の発展

- 音声・画像との融合
- 基盤モデルの向上
- 計算資源の確保

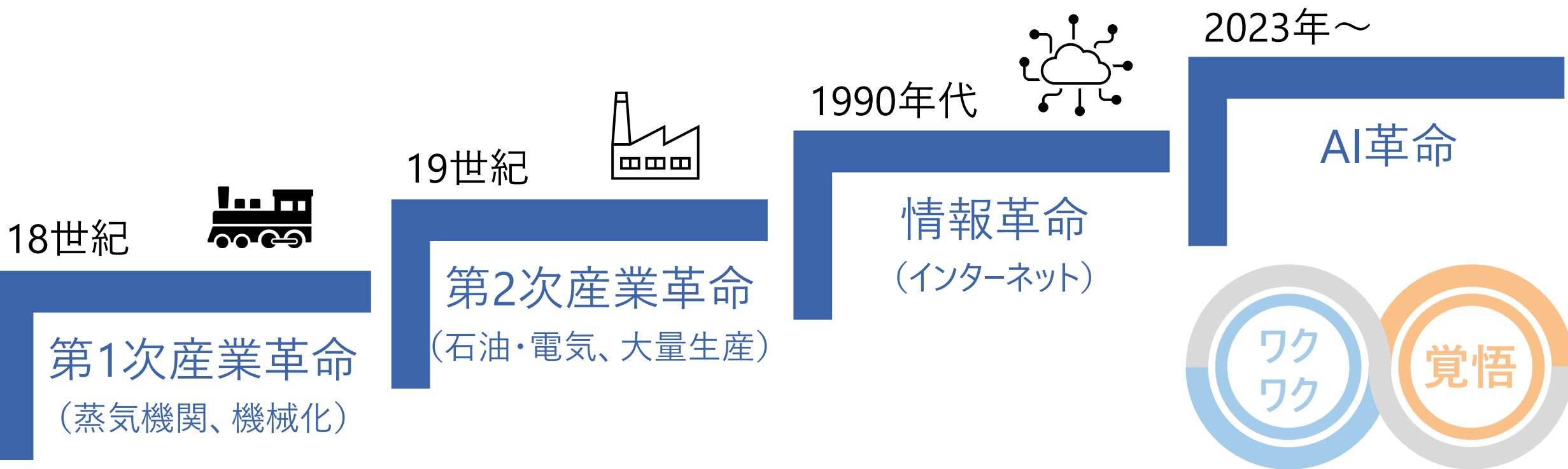
将来注目される変化

生成AIによる エージェント

- 人との対話の仲介
- デジタルアシスタント
- デジタルコンセルジュ

AIの時代がくる「ワクワク感」と「覚悟」を持つことが大切

- 18世紀の産業革命、1990年代のインターネットによる情報革命、そしてAI革命がくる
- 蒸気機関、情報が時代を変えたように、AIが生活・社会・ビジネスを大きく変える時代に



参考

2023年5月と10月に日本のビジネスパーソンを対象にした 「生成 AIのビジネス利用の実態と意向」のアンケート調査を実施。

■ AIの導入に関するアンケート調査（5月）

- 調査方法：インターネットアンケート
- 対象者：日本全国に居住する20～69歳のビジネスパーソン（パート・アルバイトを除く就労者）
- 回答数：2,421人（性・年代で均等割付、予備サンプルを含む）

■ 生成AI利用に関する就労者調査（10月）

- 調査方法：インターネットアンケート
- 対象者：日本全国に居住する20～69歳のビジネスパーソン（パート・アルバイトを除く就労者）
- 回答数：2,000人（性・年代で均等割付）



**Envision the value,
Empower the change**